



さいたま市

令和6年度  
さいたま市学習状況調査  
解説資料【改訂版】

【国語】



令和7年2月  
さいたま市教育委員会

# 目 次

## 調査問題の解説

I	小学校 第3学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	2
2	調査問題一覧表【設問別】	3
3	正答例	4
4	特徴的な問題と解説	5
II	小学校 第4学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	9
2	調査問題一覧表【設問別】	10
3	正答例	11
4	特徴的な問題と解説	12
III	小学校 第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	15
2	調査問題一覧表【設問別】	16
3	正答例	17
4	特徴的な問題と解説	18
IV	小学校 第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	21
2	調査問題一覧表【設問別】	22
3	正答例	23
4	特徴的な問題と解説	24
V	中・中等教育学校 第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	27
2	調査問題一覧表【設問別】	28
3	正答例	29
4	特徴的な問題と解説	30
VI	中・中等教育学校 第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	34
2	調査問題一覧表【設問別】	35
3	正答例	36
4	特徴的な問題と解説	37

# 調査問題等の解説

国語科の調査問題について、小学校第3学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

## 1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問ごとに、設問のねらい、学習指導要領の領域等、評価の観点、問題形式、正答率(速報値)等を示しています。

## 3 正答例

問題を解く方法(考え方)やこれまでの学習のつながり等を見童生徒向けに提示しています。

## 4 特徴的な問題と解説

令和6年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

また、指導のポイントを具現化し、授業(学び)の改善・充実を図る際の参考となるよう、「学びの知恵袋」として、授業(学び)のアイデアの一例を示しています。

※本書では、調査名について、略称を用いている。

調査名	略称
平成〇年度 全国学力・学習状況調査	平成〇年度全国調査
平成〇年度 さいたま市学習状況調査 小〇算数	平成〇年度市調査【小〇】
平成〇年度 さいたま市学習状況調査 中〇数学	平成〇年度市調査【中〇】

なお、本書で記載している全国調査の正答率は、市の正答率を示している。

I 小学校 第3学年

I 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	(1)	漢字	本問題では、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうかをみる問題である。なお、「しんせつ」は昨年度同様、小3～小6の全ての学年で、「おしえる」は小4においても出題している。
		(2)	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。なお、①の同一問題を小4で、②の同一問題を小3～小6のすべての学年で出題している。
		(3)	指示語	本問題は、指示語の役割を理解しているかどうかをみる問題である。ここでは、指示語が文や文章の構成に関わる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしていることを理解しながら、文章を読む力が求められる。なお、同一問題を小4においても出題している。
読むこと	2	【説明文】 たこを高く上げる方法をまとめる	本問題は、目的を意識して中心になる語や文を見つけながら文章を読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、説明的な文章を読み、文と文との関係を押さえ、中心となる語句や文に着目しながら、文脈に合う適切な言葉を選択する力が求められる。	
		【物語文】 3まいの絵を使って紹介をする	本問題は、登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読むことができるかどうかをみる問題である。そのため、【『どうするティリー？』の一部】を【3枚の絵】を使って、1年生に紹介する場面を設定した。ここでは、登場人物の行動や場面が変化したことが分かる言葉や文を見つけながら読む力が求められる。	
書くこと	4	相手や目的を意識した文末表現に整える	本問題は、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手や目的に応じて敬体と常体を意識的に使い分け、文末表現に注意しながら文章を整える力が求められる。	
話すこと・聞くこと	5	学級の歌のタイトルを決める	本問題は、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができるかどうかをみる問題である。ここでは、話し合ったことを伝えるために、発表者がどのようなことを発表しているかを捉える力が求められる。なお、同一問題を小4においても出題している。	

2 調査問題一覧表【設問別】(第3学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)		
		(1)	(2)	(3)	A	B	C												
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと												
1	(1)①	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選	47.6	0.8	R5市【小3】	40.5	小4 小5 小6	66.8 73.0 82.5	
	(1)②	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(地)	○						○			選	69.5	0.5	R5市【小3】	70.6			
	(1)③	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(教)	○							○			選	78.4	0.4	R5市【小3】	79.5	小4	86.0
	(1)④	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(遠)	○							○			選	79.6	0.3	H30市【小3】	69.0		
	(1)⑤	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(広)	○							○			選	55.1	0.5	R4市【小4】	63.0		
	(2)①	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○							○			選	76.4	0.5	R5市【小3】	25.7	小4	83.8
	(2)②	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○							○			選	52.3	0.7	R5市【小3】	26.7	小4 小5 小6	70.6 66.3 73.5
	(3)	文の中の指示する語句の役割について理解することができる。	○							○			選	87.9	0.4	◎R5市【小3】	87.4	小4	94.3
2	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて、文章を読むことができる。								○		○	選	68.6	1.0	◎R1市【小3】	59.3			
3	絵2	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。							○		○	選	63.0	1.2	◎H30市【小3】	69.2			
	絵3	登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。							○		○	選	47.2	1.4	◎H30市【小3】	55.7			
4	相手や目的に応じて敬体と常体を意識的に使い分け、文末表現に注意しながら文章を整えることができる。								○		○	選	75.8	1.5	R4市【小3】	60.4			
5	互いの考えを聞き、意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。							○			○	選	53.5	2.5	◎R1市【小4】	71.2	小4	62.4	

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

### 3 正答れい【小学校国語 第3学年】

せつもん番ごう		正答れい	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学しゅうのつながり など
1	(1) ①	イ	かん字をれんしゅうする時は、かん字の書き方のみをれんしゅうするのではなく、言ばをしらべたり、文をつくったりするなど、文の中でつかうことをいしきしましょう。 また、国語じてんやタブレットをつかって言ばをしらべ、言ばをふやしたり、同じ読み方のかん字をかくにんしたりするなど、かん字のもつみを考えてつかうしゅうかんをみにつけましょう。
	(1) ②	ウ	
	(1) ③	ア	
	(1) ④	イ	
	(1) ⑤	イ	
	(2) ①	しゅ語:ア じゅつ語:ウ	しゅ語は、言ばのさい後が「～は」「～が」「～も」でおわっているものをさがしましょう。じゅつ語は、文のおわりにちゅう目してさがしましょう。その時にしゅ語とじゅつ語をつなげていみが分かるかたしかめましょう。
	(2) ②	しゅ語:イ じゅつ語:エ	ふだんから、しゅ語とじゅつ語をいしきして文を読んだり書いたりすることが大切です。
(3)	ウ	「こそあど言ば」のようなしじ語は、しじ語よりも前にさす言ばがあります。さす言ばをしじ語に当てはめて、いみが通じるかたしかめてみましょう。	
2	イ	文しゅうを読むときに、「だれが」「何をしたのか」、「何をしたら」「どうなったのか」中心となりそうな言ばや文しゅうに線を引くことで、文と文のかんけいが見えたり、その文しゅうにおける大切な言ばが分かりやすくなったりします。	
3	絵2	ウ	場めんは、時間、場しよ、とう場人ぶつ、「どこで」「だれが」「なにをして」「どう思った」というし点で文しゅうをよく読んでみましょう。このもんだいでは、とう場人ぶつの行どうをもとに考えるとよいでしょう。
	絵3	オ	
4	イ	文しゅうを書くときには、文しゅうの終わりの言い方をそろえましょう。「です」や「ます」などのていねいな言ばを使ったときには、ぜんぶの文しゅうの終わりをていねいな言ばにします。ただし、会話文は話した言ばをそのまま使って書きましょう。	
5	エ	話し合いをする時は、い見の同じところや、ちがうところにちやく目して、考えをまとめることが大切です。あい手のつたえたいことが何かを考え、せい理しながら、話したり聞いたりしましょう。	

#### 4 特徴的な問題と解説

### 小学校第3学年 国語「読むこと」

#### 【特徴的な問題】

問題 ③

(レオ=レオニ作、谷川俊太郎訳「どうするティリー？」による)

#### 【出題の趣旨】

本問題は、《登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えること》ができるかどうかを見る問題である。

そのために、【『どうするティリー？』の一部】を【3枚の絵】を使って、1年生に紹介する場面を設定した。ここでは、登場人物の行動や場面が変化したことが分かる言葉や文を見付けながら読む力が求められる。

#### 【指導のポイント】

##### 1 「場面」をしっかりと捉える。

文学的な文章における「場面」は、(時間)(場所)(登場人物の気持ち)の変化などによって変わる。この視点を児童にもたせ、文章を読み進めることができるようにすることが大切である。また、場面絵は、児童が物語の内容を捉えるのに有効である。その際、場面絵と文章を結び付けたり並び替えゲームをしたりしながら、物語の内容や流れを理解しやすくすることが求められる。

##### 2 場面の移り変わりを捉える。

登場人物の(行動)(会話)(情景)などの叙述を根拠にしながら、話の大体を捉えるとともに、場面と場面を関係付けながら、児童が読み進められるようにすることが大切である。具体的には、「いつ」「どこで」「だれが」「何をして」「どう思ったのか」などを中心に物語のあらすじをまとめることで、場面の移り変わりを捉えることができるようになる。また、中心人物の気持ちの動きを、グラフや絵で表現させることで、視覚的にも、場面の移り変わりを捉えることができる。

##### 3 学習方法を工夫する。

協働的な学びが効果的であると考えられる。読みの視点を基に、変化したと思うところを友達に説明することで、自分の考えを明確にすることが大切である。そうすることで、様々な場面のつながりに気付き、読みを広げていくことができる。また、単元を見通したゴールを設定し児童と共有することで、一人ひとりが自分のペースで文学的文章と向き合う時間を確保することができる。※場面にこだわった読みの時間を長くしてしまうと、各場面の関係性に気が付けない可能性がある。

そのため、読みの視点を与え、全体を捉えながら変化を読み取ることが大切となる。全文を繰り返し読むことで、場面の移り変わりを捉えられるようにしていく。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

<小学国語・3年 読むこと>

<単元名> 二人の登場人物の気持ちをそうそうして、手紙を書こう。

<教材名> 「紙ひこうき、きみへ」 (教育出版 3年上)

<主な指導事項> 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

【思考力・判断力・表現力等】C(1)エ

<言語活動とその特徴>

登場人物の性格や考え方などを比べながら読むことや、道具や持ちもの、服装などの相違点に気を付けて読むことで、物語の想像が広がり、それが「読むおもしろさ」の一つだと実感できるような読み方を実践していく。第5・6学年への系統性を考え、「人物関係図」の入口とした登場人物の関係を示す吹き出しや、「心情グラフ」へと繋げる「気持ちグラフ」などのアイテムも取り入れていく。

<単元計画>

次	時	・主な学習活動	○学習内容
一	1	①「紙ひこうき、きみへ」の範読を聞き、初発の感想を書く。 ②学習課題を立て、学習計画を立てる。	
二	2	③登場人物について、考える。 ・人物の関係図(吹き出し)の活用 ・1年「お手紙」モデル文の提示	○登場人物の特徴の捉え方と対比のしかた ・行動を表す語彙を探す。 ・くらし、持ちもの、考え方、関係や思いを表す語彙を探す。
	3	④キリリの気持ちが分かる文をさがし、気持ちを想像する。	○登場人物の行動や気持ちの変化の捉え方と叙述への着目のしかた ・行動や会話を表す語彙を探す。
	4	⑤キリリの気持ちの移り変わりを考え、気持ちグラフにする。 ・気持ちグラフの活用	○登場人物の行動や気持ちの変化の捉え方と叙述への着目のしかた ・場面の移り変わりとの結び付けをする。
	5	⑥ミークの気持ちを考え、変わったところをまとめる。	○登場人物の気持ちの変化の捉え方 ・行動や会話文の比較をする。
	6	⑦二人の登場人物の気持ちを想像し、物語の続きの二人に手紙を書く。	
	三	7	⑧自分の選んだ本の登場人物の関係について考える。 ・人物の関係図(吹き出し)の活用

並行読書

三	8	⑨自分が選んだ本の登場人物の気持ちを想像する。 ・ <b>気持ちグラフの活用</b>	○登場人物の行動や気持ちの変化の捉え方と叙述への着目のしかた ・行動や会話を表す語彙を探す。 ○登場人物の行動や気持ちの変化の捉え方と叙述への着目のしかた ・場面の移り変わりとの結び付けをする。	並行読書
	9	⑩自分が選んだ本の二人の登場人物の気持ちを想像し、物語の続きの二人に手紙を書く。 ・ <b>並行読書 単元を貫く言語活動</b>	○考えの共有 ○感じ方の違いへの気付き	

〈言語活動のモデル〉

①既習教材の活用

二人の登場人物の気持ちを捉えようとして、手紙を書こうと決めた。

「紙ひこうき、きみへ」⑩

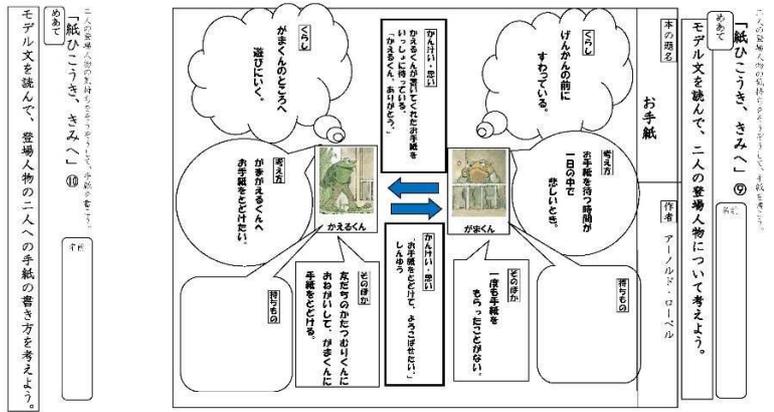
モデル文を読んで、登場人物の二人への手紙の書き方を考えよう。

がまくんと かえるくんへ

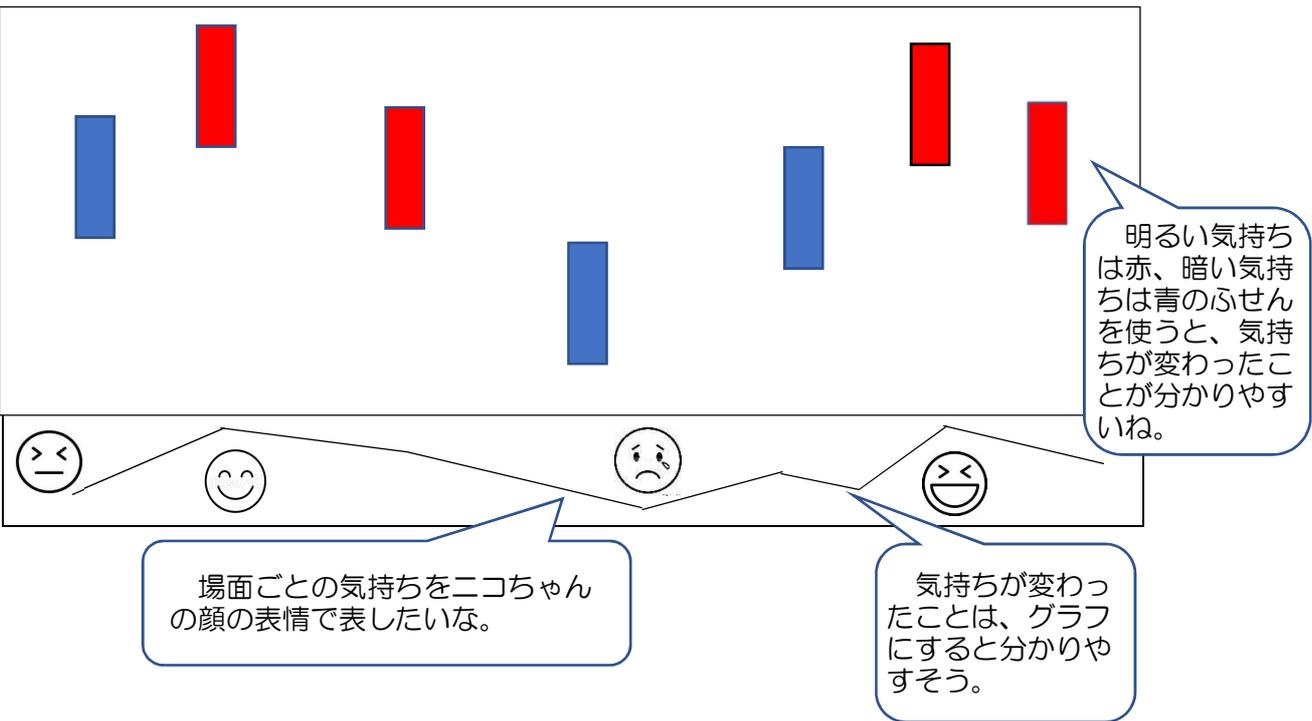
はじめ、(お手紙がもらえなくて悲しかった) がまくんが (かえるくんからお手紙をもらって、しあわせになるなんて、ふたりのかんけいは「親友」で、とてもすてきだと思ったよ。わたしは、きつと、お手紙がとじてから、とどけてくれたかたつむりくんとがまくんとかえるくんの三人で、いっしょにわらって、しあわせな時間をすごしたと思います。がまくんは、かえるくんにお手紙のお返事を書きましたか。これからも、いっしょに遊んだり、お手紙を送り合ったり、すてきな「しんゆう」でいてね。

〇〇〇より

②登場人物についての捉え方



③叙述を基に捉えた行動や気持ち、変化の可視化



④ 言語活動

③  
すてきなしんゆうでいてね。  
これからもいっしょに遊んだり、お手紙を送り合ったり、  
○○○○よ

②  
がまくんは、かえるくんにお手紙のお返事を書きましたか、  
わらって、しあわせな時間をすごしたと思います。  
かたむりくんとがまくんとかえるくんの3人で、いっばい  
わたしは、きょう、お手紙がといてから、とどけてくれた  
ふたりのかんけいは「親友で、とてもすてきだ」と思ったよ。

①  
がまくんとかえるくんへ  
はじめ、お手紙がもらえなくて悲しんでいたがまくんが  
(かえるくんからお手紙をもらってしあわせにな)るなんて、

「紙のこころ」  
モデル文を読んで、登場人物の二人への手紙の書き方を考えよう。

【モデル文の分析】

- ① 登場人物の気持ちの変化
- ② 物語のつづきの想像
- ③ 二人の登場人物に宛てたメッセージ



【言語活動の中で出てきた 登場人物の気持ち変化】

「わすれることが大切」  
→ 「また会いたい」  
「キリリのはわすれない」



「一人で旅をしている」  
→ 「一緒に旅をしよう」



「だれだか分からず緊張」  
→ 「離れるのが悲しい」





【自分が選んだ本を読んで、登場人物の二人に手紙を書く言語活動】

## II 小学校 第4学年

### I 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	(1)	漢字	本問題では、当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうかをみる問題である。なお、「しんせつ」は昨年度同様、小3～小6の全ての学年で、「おしえる」は小3においても出題している。
		(2)	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。なお、①の同一問題を小3で、②の同一問題を小3～小6のすべての学年においても出題している。
		(3)	指示語	本問題は、指示語の役割を理解しているかどうかをみる問題である。ここでは、指示語が文や文章の構成に関わる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしていることを理解しながら、文章を読む力が求められる。なお、同一問題を小3においても出題している。
読むこと	2	【説明文】 「われないシャボン玉」のページを読む	本問題は、目的を意識して中心になる語や文を見つけながら文章を読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、説明的な文章を読み、文と文との関係を押さえ、中心となる語句や文に着目しながら、文脈に合う適切な言葉を選択する力が求められる。	
		【物語文】 登場人物の気持ちの変化を考える	本問題は、登場人物の気持ちの変化や性格・情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像して読むことができるかどうかをみる問題である。ここでは、登場人物の行動や会話に即しながら、状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて、自分を取り巻く現実や経験と照らし合わせながら読む力が求められる。	
書くこと	4	「5年生で がんばりたいこと」 を分かりやすく書く	本問題は、文章全体の構成に着目して文章を整えたり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりすることができるかどうかをみる問題である。ここでは、文章を書く相手や目的を念頭に置きながら、文章を推敲する力が求められる。	
話すこと・聞くこと	5	学級の歌の タイトルを 決める	本問題は、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができるかどうかをみる問題である。ここでは、話し合ったことを伝えるために、発表者がどのようなことを発表しているかを捉える力が求められる。なお、同一問題を小3においても出題している。	

## 2 調査問題一覧表【設問別】(第4学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等					評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)	
		(1)	(2)	(3)	A	B	C											
		(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと											
1	(1) ①	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(消)	○						○			選	88.7	0.3	R1市【小4】	90.7		
	(1) ②	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(教)	○						○			選	86.0	0.2	R5市【小3】	79.5	小3	78.4
	(1) ③	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選	66.8	0.2	R5市【小4】	65.9	小3 小5 小6	47.6 73.0 82.5
	(1) ④	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(身)	○						○			選	71.8	0.4	R4市【小4】	78.8		
	(1) ⑤	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(習)	○						○			選	89.2	0.2	R5市【小4】	79.5		
	(2) ①	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○						○			選	83.8	0.2	R5市【小4】	39.0	小3	76.4
	(2) ②	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○						○			選	70.6	0.3	R5市【小4】	33.0	小3 小5 小6	52.3 66.3 73.5
	(3)	文の中の指示する語句の役割について理解することができる。	○						○			選	94.3	0.3	◎R5市【小4】	94.0	小3	87.9
2	山田さん	目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる。						○		○		選	57.4	0.2	◎R1市【小4】	66.1		
	小川さん	目的に応じて、中心になる語や文を捉えて、文章を読むことができる。						○		○		選	37.7	0.2	◎R1市【小4】	55.8		
3	① こわい 気持ち	登場人物の気持ちの変化や性格・情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像して読むことができる。						○		○		選	32.4	0.4	◎H29市【小4】	48.3		
	② 感動 する 気持ち	登場人物の気持ちの変化や性格・情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像して読むことができる。						○		○		選	38.3	0.5				
4		文章全体の構成に着目し、相手や目的を意識して、文章を整えることができる。						○		○		選	70.4	0.7	◎R4市【小4】	71.3		
5		互いの考えを聞き、意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。					○			○		選	62.4	1.3	◎R1市【小4】	71.2	小3	53.5

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

### 3 正答れい【小学校国語 第4学年】

せつ問番号		正答れい	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1) ①	ウ	漢字を練習する時は、漢字の書き方だけを練習するのではなく、その漢字を使ったじゅく語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文章の中で使うことを意しきして練習しましょう。その時、国語じてんやタブレットを使って、言葉を調べ、使える言葉をふやせるとよりよいです。 また、ほかの教科や日常生活の中でも学んだ漢字をせっきよくてきに使いましょう。
	(1) ②	ア	
	(1) ③	イ	
	(1) ④	ウ	
	(1) ⑤	ア	
	(2) ①	主語:ア じゅつ語:ウ	主語は、言葉のさい後が「～は」「～が」「～も」で終わっているものをさがしましょう。じゅつ語は、文の終わりに注目してさがしましょう。その時に主語とじゅつ語をつなげて意味が分かるかたしかめましょう。ふだんから、主語とじゅつ語を意しきして文を読んだり書いたりすることが大切です。
	(2) ②	主語:イ じゅつ語:エ	
(3)	ウ	「こそあど言葉」のような指じ語は、指じ語よりも前に指す言葉があります。指す言葉を指じ語に当てはめて、意味が通じるかたしかめてみましょう。	
2	山田さん	ウ	自分が知りたいじょうほうを見つけるための読み方として、キーワードに着目する読み方があります。書かれている内よう全てをくわしく読むのではなく、知りたいじょうほうのキーワードが書かれているところをさがし、その部分をくわしく読むと、知りたいことが見つけやすくなります。
	小川さん	オ	
3	① こわい 気持ち	ウ	登場人物の気持ちをとらえるためには、その人物が「したこと」「言ったこと」「思ったこと・考えたこと」が書かれている文に着目しましょう。一つの文のみで考えるだけではなく、さまざまな文をおすびつけることが大切です。また、場面がかわると登場人物の気持ちもかわる場合があります。そのへん化を考えることは、物語を読む楽しさの一つです。
	② 感動 する 気持ち	カ	
4		イ	自分で文章を見直すときには、次のことに気を付けて読み直してみましょう。 ①書く相手 ②書く目てき(しょうたいじょう・ほうこく文・しょうかい文など…) ③書いてある言葉が正しいか ④文末表げんの使い方 一つの文章が長いと、相手にとって読みにくくなります。読みやすいようにかんけつな文にするなど、すいこうしてみましょう。
5		エ	話し合いをする時は、意見の同じところや、ちがうところに着目して、考えをまとめることが大切です。相手のつたえたいことが何かを考え、整理しながら、話したり聞いたりしましょう。

## 4 特徴的な問題と解説

### 小学校第4学年 国語 「読むこと」

#### 【特徴的な問題】

問題 ③

(竹内もと代「奈緒のふしぎ物語」による)

#### 【出題の趣旨】

本問題は、《登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むこと》ができるかどうかを見る問題である。ここでは、登場人物の行動や会話に即して状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて、自分を取り巻く現実や経験と照らし合わせながら読む力が求められる。

#### 【指導のポイント】

##### 1 登場人物の気持ちを、叙述を基に捉える。

物語文を読む際、中学年では、物語全体の登場人物の気持ちの変化を、行動や会話、地の文などの叙述を基に捉えていくことが求められる。行動や気持ちを捉える際には、登場人物の境遇や状況も重要な要素となる。また、物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることが大切である。

##### 2 場面の移り変わりと結び付けて、気持ちの変化を想像する

物語の世界を豊かに想像するには、登場人物の気持ちや性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けながら具体的に思い描く必要がある。複数の場面の叙述を結び付けながら、気持ちの変化を見だして想像することで、登場人物の気持ちの揺れ動きを捉えることができる。情景には、登場人物の気持ちが表されていることが多いので、行動や会話だけでなく情景にも着目して読むことができるようにしていきたい。また、気持ちの揺れ動きが大きい場面は、物語の盛り上がり（山場）となることを触れておきたい。

#### 【具体的な手立て】

##### ＜言語活動例＞

作品紹介カードの作成・・・人物の気持ちの変化をもとに作品を一言で紹介する。

※作品紹介カード等の作成を行う場合は、既習の物語（前学年までに学習したもの）でモデルを作成すると、児童が活動の見通しを明確にもつことができる。

##### ＜全文掲載シートの活用＞

叙述を基に登場人物の性格を考えたり、気持ちの変化を想像したりするために、全文を掲載したシートを用いた学習が有効である。叙述に線を引いたり書き込みをしたりすることによって、登場人物の性格や気持ちの変化を物語全体から考えることができる。また、友達との伝え合い活動でも根拠となる叙述を伝えやすい。

##### ＜心情の変化を可視化する心情メーター＞

心情の変化を読むことを目標とした学習では、心情の変化を可視化する心情メーター、心情曲線の活用が考えられる。心情の変化を可視化できると変化の大きい場面を捉えやすくなり、作品のおもしろさにより迫ることができる。

心情メーターや心情曲線を友達と交流する際は、考えの違いを比べるだけでなく、気持ちを想像する時に根拠となった叙述にもしっかり着目するよう指導したい。

##### ＜読むことにおけるICT機器の活用＞

考えの交流、共有等の場面以外のICT機器の活用は以下のようなものが考えられる。

- ・初発の感想 Teams…コメントをすぐに返すことができる。  
Forms…多く書かれたキーワードを把握できる。
- ・初発の感想を毎時間ごとに加筆、削除して保存し、学習による考えの変容を見る。

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

＜小学国語・4年 読むこと＞

＜单元名＞ 友達に登場人物の気持ちの変化が伝わるような「しょうかいカード」を作ろう

＜教材名＞ 「ごんぎつね」 (教育出版 4年下)

＜主な指導事項＞ 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

【思考力・判断力・表現力等】C(1)エ

＜言語活動とその特徴＞

物語の読み取りには、場面で読む方法以外にも登場人物の性格に焦点を当てたり、気持ちに焦点を当てたり、表現技法に焦点を当てたりと、多様な読み方があります。扱う教材の特性を考えながら単元を構想していきます。本単元では、登場人物の気持ちとその変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することを目標に展開します。

言語活動は「紹介カード」作りとしました(紹介カードに書く内容は、学習内容と正対するようにします)。登場人物の気持ちの変化は、場面の移り変わりの中で揺れ動いて描かれることが多いです。そのため、複数の場面の叙述を結び付けながら、気持ちの変化を想像していく必要があります。紹介カードを作るために、気持ちグラフを用いて気持ちの変化の揺れや動きを考え、紹介カードにまとめる学習の流れをとります。また、教材文だけの学習で終わることなく、同一作者の物語に触れることで、児童の多様な読書活動につなげていきます。

＜单元計画＞

次	時	主な学習活動	○学習内容
一	1 2	①「ごんぎつね」の範読を聞き、初発の感想を書く。 ②学習課題を立て、学習計画を立てる。	○学習課題の設定 ○学習計画の立て方

**言語活動のモデル**

②気持ちの変化後の登場人物の行動や会話など

- ・「ああ」「とてもいい手紙だ。」
- ・二人(ごんぎつねとあむね)は笑顔をもちあひまわらうとすわっていました。
- ・手紙をもらってがまんはとてもうれしかったです。

③変化のきっかけ

- ・かえるくんががまんさんに手紙を書いてくれたことを知ったから
- ・手紙にとてもいいことを書いてくれてうれしかった、とごんぎつねが待ちどほしいから

①気持ちの変化前の登場人物の行動や会話など

- ・お手紙をまつ語間は、一日のうちの悲しいときなんだ。
- ・「だれもほくにお手紙なんかくれたことがないんだ。」
- ・「ほくに手紙をくれる人なんているとは思えないよ。」

気持ち

とても悲しくて、さみしい。あきらめている気持ち。

気持ち

とても幸せだよ。ごんぎつね、ほかにほかに書いたような気持ち

単元のゴールイメージをもつためには、モデルの提示が有効です。既習教材であれば、児童の理解もしやすくなります。教材研究の際に、モデルを作り、そこからの逆算で単元を構想するとよいです。今回は、1年生で学習したお手紙でモデルを作りました。



### Ⅲ 小学校 第5学年

#### Ⅰ 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	Ⅰ	(1)	漢字	本問題は、該当学年前の学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことができているかをみる問題である。なお、「しんせつ」は小3～小6の全ての学年で、「し(はじめる)」は小6においても出題している。
		(2) (3)	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。なお、(2)の同一問題を小3～小6の全ての学年で、(3)の同一問題を小6においても出題している。
		(4)	修飾語	本問題は、修飾語と被修飾語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。文の中での語句相互の關係に気を付け、文の組み立てを理解する力が求められる。なお、同一問題を小6においても出題している。
		(5)	敬語	本問題は、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手と自分との関係や、その場の状況を意識して適切に敬語を使う力が求められる。なお、同一問題を小6においても出題している。
		読むこと	Ⅱ	2
3	【物語文】 登場人物の相互関係を読む			本問題は、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえながら読むことができるかどうかをみる問題である。柳月美智子著「十二歳」の一部を読み、三人の登場人物の関係をとらえる場面を設定した。登場人物の行動や会話に注目し、前後の文脈から相互関係を判断して読む力が求められる。
書くこと	Ⅲ	4	読書月間について新聞にまとめる	本問題は、自分の考えが伝わるようにするために、適切な図表を用いることができるかどうかをみる問題である。ここでは、目的や意図に応じて、どのような図表を用いれば効果的かを考える力が求められる。なお、同一問題を小6においても出題している。
話すこと・聞くこと	Ⅳ	5	「あいさつキャンペーン」の取組内容を話し合う	本問題は、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができるかどうかをみる問題である。ここでは、話し手の問いに対し、共感しつつ新たな考えを提示するなどして効果的に助言をしていることを説明することが求められる。なお、同一問題を小6においても出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】(第5学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)		
		(1)	(2)	(3)	A	B	C												
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと												
1	(1) ①	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選	73.0	0.2	R5市【小5】	70.7	小3 小4 小6	47.6 66.8 82.5	
	(1) ②	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(始)	○						○			選	77.0	0.1			小6	79.3	
	(1) ③	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(満)	○						○			選	93.0	0.0	R5市【小5】	87.2			
	(1) ④	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(完)	○						○			選	94.3	0.1	R4市【小5】	95.0			
	(1) ⑤	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる。(部)	○						○			選	82.5	0.1					
	(2)	文中の主語と述語の関係を理解することができる。	○						○				選	66.3	0.2	◎R5市【小5】	65.0	小3 小4 小6	52.3 70.6 73.5
	(3)	文中の主語と述語の関係を理解することができる。	○						○				選	70.4	0.1	◎R3全国	61.9	小6	77.2
	(4)	文中の修飾と被修飾の関係を理解することができる。	○						○				選	53.3	0.1	R3全国	41.0	小6	57.8
	(5)	相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる。	○						○				選	58.8	0.1	◎R5全国	59.5	小6	66.7
2	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけて読むことができる。							○	○			選	71.0	0.2	H30市【小5】	51.2	小6	75.8	
3	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえながら読むことができる。							○	○			選	74.2	0.1	H28市【小5】	79.1			
4	(1)	自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる。						○	○			選	61.3	0.2	R4市【小5】	73.1	小6	64.9	
	(2)	自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる。						○	○			選	42.5	0.2	◎R4市【小5】	50.8	小6	49.5	
5	(1) 助言①	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。						○	○			選	51.4	0.3	◎R4市【小5】	55.0	小6	58.2	
	(1) 助言②	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。						○	○			選	77.9	0.3	◎R4市【小5】	67.2	小6	83.8	
	(1) 助言③	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。						○	○			選	68.7	0.6	◎R4市【小5】	65.1	小6	73.8	
	(2)	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。						○	○			選	49.5	1.2	◎R4市【小5】	51.8	小6	52.9	

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を目指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

### 3 正答例【小学校国語 第5学年】

せつ問番号		正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1) ①	イ	漢字を練習する時は、その漢字を使ったじゅく語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文章の中で使うことを意きして練習しましょう。その時、国語辞典やタブレットをつかって、漢字がもつ意味をとらえ、使える言葉をふやせるとよりよいです。 漢字が正しく書けるようになるには、実さいに書いて練習することが有こうです。タブレットでの入力だけでなく、実さいに書く活動をバランスよく取り入れてください。
	(1) ②	イ	
	(1) ③	ア	
	(1) ④	ウ	
	(1) ⑤	イ	主語は、言葉の最後が「～は」「～が」「～も」で終わっているものさがしましょう。述語は、文の終わりに注目してさがしましょう。その時に主語と述語をつなげて意味が分かるかたしかめましょう。ふだんから、主語と述語を意きして文を読んだり書いたりすることが大切です。
	(2)	主語:イ 述(じゅつ)語:エ	
	(3)	ウ	
	(4)	ウ	くわしくする言葉とされる言葉の関係をとらえるためには、くわしくする言葉とされる言葉の二つの言葉のまともに着目し、意味の通るまともにになっているかをかくにんすることが大切です。
(5)	ア	敬語(けいご)には「尊敬(そんけい)語」「謙譲(けんじょう)語」「丁寧(ていねい)語」があります。その中の「謙譲語」と「尊敬語」は、その動作が「だれの動作」かによって使い分ける必要があります。自分や身内の動作の時は「謙譲語」、相手や話題となる人の動作は「尊敬語」となります。	
2	エ	案内を見て、「衣・食・住でつながる世界の文化交流展(ぶんかこうりゅうてん)」のねらいとは何かを考えながら読んでみましょう。文章と図表などを結び付けながらじょうほうを取しや選たくしたり、整理したりして読むと、書き手の意図を理かいしやすくなります。	
3	ア	登場人物の関係の変化や心じょうを読み取るためには、登場人物の行動や心じょうなどを、読み手が想ぞうできる文を基にして考えることが大切です。心じょうは、直せつ的に書かれている場合や、行動や会話、じょう景などを通して表現される場合もあります。	
4	(1)	イ	新聞などでし料を使うときには、自分の伝えたいことに合わせて「どのようなし料を入れると、よりこう果的か」をよく考えることが大切です。
	(2)	ア	見出しをつけるときには、まず、「何を伝えたいのか」をはっきりさせましょう。そして、どうしたら読み手の関心をひきつけることができるのかを考えて、「言葉の順じょを変えて強調する」「よびかける表げんにする」「キーワードで伝える」など、表げんの仕方をくふうしてみましょう。
5	(1) 助言①	エ	助言をするときには、相手の立場や状況に合わせて、共感的なたい度で相手が話す内容を理かいしていくことが重要です。また、具体的な意見やてい案を一方的に伝えるのではなく、相手が自ら課題をかい決できるような助言をすることが大切です。助言をし合っている様子をグループ同士で見合うことで、どんな助言の仕方が有こうであったかをかくにんしてみると、こう果的です。
	(1) 助言②	ア	
	(1) 助言③	ウ	
	(2)	ア	

#### 4 特徴的な問題と解説

### 小学校第5学年 国語 「読むこと」

#### 【特徴的な問題】

問題 ③

(柳月美智子「十二歳」による)

#### 【出題の趣旨】

本問題は、《登場人物の相互関係をとらえながら読むこと》ができるかどうかをみる問題である。そのために、柳月美智子著「十二歳」の一部を読み、三人の登場人物の関係を捉える場面を設定した。ここでは、登場人物の行動や会話に注目し、前後の文脈から相互関係を判断して読む力が求められる。

#### 【指導のポイント】

##### 1 登場人物の相互関係や心情を捉えて読む。

物語などの文学的な文章は、登場人物の相互関係や心情を明確にしながらか読むことが重要である。

主な登場人物についての相互関係や心情を捉えるための指導方法としては、中心人物を押さえ、描写を基に考えをまとめることが大切である。描写とは、物事の様子や場面、行動や心情を、読み手が想像できるように描いたものである。心情は直接的に描かれている場合もあるが、人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている場合もある。

描写を基に考えをまとめる際、中心人物を取り巻く登場人物が、その中心人物をどのように見ているのか、物語の進行に伴って相互関係がどのように変化するかに着目させることが大切である。

具体的な指導としては、「家族」や「同級生」のような実体的な関係や、「仲間」や「好敵手」のような構造的な関係について、カードを並べたり、関係図に表したりすることが考えられる。

##### 2 「やま場」を見付ける活動を通して登場人物の性格や心情、相互関係についての理解を深める。

#### <指導事例>

**第一次**・初発の感想から、中心人物の心情や行動の変化に着目させ、学習課題「中心人物の心情や行動から物語の「やま場」を見付けよう」を設定する。

**第二次**・物語を読んで、中心人物の性格や心情、相互関係を捉える。  
・中心人物の心情や行動が大きく変わった「やま場」を、自分の考えを根拠にしてまとめる。  
◇オクリンクプラス等を活用して共有できる。

**第三次**・それぞれが考えた「やま場」を伝え合い、類似点や相違点を整理・分析して物語の読みを深める。

集計機能で整理・分析に活用する

(参考)

・さいたま市教育委員会「平成28年度さいたま市学習状況調査解説資料【国語】」

#### 自分が考えた「やま場」

教科書

P.〇〇 △行目 はじめの一文を入力しよう

から、

P.〇〇 △行目 最後の一文を入力しよう

#### 「やま場」にした理由

自分の考えを入力しよう

使用するカード例 (オクリンクプラス)

The screenshot shows the '授業設定' (Lesson Settings) dialog box. It has several options with radio buttons for '可能' (Possible) and '不可能' (Impossible):  
- みんなのボード・カードの編集: 可能 (selected)  
- カードのリアクション: 可能 (selected)  
- 集計機能の利用: 可能 (selected)  
- 集計用ピンの種類追加・削除: 可能 (selected)  
At the bottom, there is a checkbox for 'この選択を権限制限のデフォルト設定として保存する' (Save this selection as the default setting for permission restrictions) and buttons for 'もどる' (Return) and '保存する' (Save).  
To the right, the 'マイボード' (My Board) screen is visible, showing a 'みんなのボード' (Everyone's Board) tab and a '+ クイックメニュー' (Quick Menu) button. The menu includes '集計' (Collection) with sub-items: 'キーワード集計' (Keyword Collection), '選択肢集計' (Multiple Choice Collection), and 'ピン集計' (Pin Collection).

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

<小学国語・5年 読むこと>

〈单元名〉 物語のやま場交流会をしよう

〈教材名〉 「大造じいさんとがん」 / 「やま場」が楽しめる物語

〈主な指導事項〉 「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】C (1)イ

〈言語活動とその特徴〉

中学年までに学習した「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること」を受けて、5・6年生では登場人物の相互関係や心情の変化などを、描写を基に捉える力(指導事項C(1)イ)を付けていく。

そこで、物語の中心人物の心情やものの見方、考え方が大きく変わるところを「やま場」と定義し、物語の「やま場」とその根拠を伝え合う、「物語のやま場を解説する」言語活動を設定した。

〈单元計画〉

次	時	学習活動
一	1	<p>○「やま場」を定義し、本单元を通して身に付く力を共有する。また、映画の告知など「やま場」に期待感をもたせる具体的な広告を見せるなどして、生活とのつながりを示す。</p> <p><b>指導のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「やま場」とは・・・中心人物の心情やものの見方、考え方が大きく変わるところ。</li> <li>○「スイミー」を音読し、スイミーの何が変わったか、いつ変わったかを話し合い、モデルとなる発表を見せる。</li> <li>○モデルとなる発表から、学習計画を考える。</li> </ul>
二	2	<p>○「大造じいさんとがん」の「やま場」を見付けるためには、登場人物の相互関係や心情の変化を捉える必要があることを示し、教師の発問に対して協働的に取り組み、描写を基に登場人物の相互関係や心情の変化を捉える力を高める。</p> <p><b>指導のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「描写」とは・・・物事の様子や場面、行動や心情などを読み手が想像できるように描いたもの。具体的には、直接的な描写や暗示的に表現されたもの(行動・会話・情景)がある。</li> <li>●心情を捉える力を高める発問例 「うなぎつりばり作戦」と「たにし作戦」における大造じいさんの心情の変化の、似ている点と違う点について考えよう。</li> </ul>
	3	
	4	
三	5	<p>○大造じいさんの何が変わったのか自分の考えをもち、似た考えの人とグループをつくる。</p> <p>○「やま場」はどこなのかグループで協議する。</p> <p>○「やま場」についてのグループ交流会を交流する。</p> <p><b>指導のポイント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「協議」とは・・・グループ内のそれぞれが自分の考えを伝え、最適解・納得解を導くための話し合い。役割分担や話し合いの進め方など、計画的に話し合えるとよい。</li> </ul>
	6	
	7	
三	8	<p>○並行読書した作品の中から、「やま場」を考えたい作品を選ぶ。</p> <p>○中心人物の何が変わったかを考える。</p> <p>○「やま場」についての自分の考えをまとめる。</p>
	9	
	10	○物語の「やま場」交流会を行う。

並行読書(「やま場」が楽しめる物語)

〈言語活動のモデル〉

必ず書かなければならない要素を明確にする。まとめ方については、パワーポイントや紙芝居にしてまとめるなど、モデルではないまとめ方を選択できるようにしたい。

**必ず書く要素**

- 中心人物（主人公）はだれか。
- 中心人物の何が大きくかわったか。
- 変わる前の中心人物について、描写を基にして説明する。
- 「やま場」がどこか。
- 「やま場」を選んだ理由。

「何が大きく変わった」の捉え方により、「やま場」がどこかが変わります。

**表面**

「スイミー」の「やま場」はどこでしょう？ (氏名) 〇〇 による解説

**中心人物** スイミー

大きく変わる場所

元気のないスイミー

➔

元気なスイミー

やま場

「楽しくくらしていた」

「こわかった さびしかった  
とてもさびしかった。」

スイミーだけ色が違うが、仲間として受け入れていた。そんな仲間が一匹残らず食べられてしまい、元気がなくなった。

① スイミーのやま場はどこだと思う？

やま場こうほ① そっくりの兄弟を見つけるところ

やま場こうほ② スイミーがさげんだところ

他にもこうほがありますか？

描写を基に考えることが大切なので、根拠となる描写を明記するようにする。

**裏面**

私が考える「スイミー」の「やま場」はここだ！！ (氏名) 〇〇

「**やま場**」 そっくりの兄弟を見つけたところ

**理由**

私は、スイミーが大きく変わる場所を、「元気のないスイミー」が「元気なスイミー」になることだと考えました。

物語を読むと、スイミーがだんだんと元気になっているのが分かります。仲間を見つけた時に、「出てこいよ。みんなであそぼう。」と、スイミーは発言しています。この言葉から、スイミーはすでに悲しみや魚に対するこわい思いを乗り越えて、元気になっていると考えました。

スイミーがさげんだところは、もうすでに元気になっているので、私の考える「やま場」ではないと考えました。

#### IV 小学校 第6学年

##### 1 調査問題【出題の趣旨】

言葉の特徴や使い方に関する事項	1	(1)	漢字	本問題は、該当学年前の学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことができているかどうかをみる問題である。なお、「しんせつ」は小3～小6の全ての学年で、「し(はじめる)」は小5においても出題している。
		(2) (3)	主語と述語	本問題は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。主語と述語は、文の骨格をなすため、明瞭な文を書く際に最も基礎的な事項であることから、昨年度に引き続き出題した。なお、(2)の同一問題を小3～小6の全ての学年で、(3)の同一問題を小5においても出題している。
		(4)	修飾語	本問題は、修飾語と被修飾語の関係を理解しているかどうかをみる問題である。文の中での語句相互の関係に気を付け、文の組み立てを理解する力が求められる。なお、同一問題を小5においても出題している。
		(5)	敬語	本問題は、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるかどうかをみる問題である。ここでは、相手と自分との関係や、その場の状況を意識して適切に敬語を使う力が求められる。なお、同一問題を小5においても出題している。
		読むこと	2	【説明文】 博物館の展覧会 案内を読む
【物語文】 人と動物との交流 が描かれた物語を 読む	本問題は、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえながら読むことができるかどうかをみる問題である。椋鳩十著「金色の足あと」の一部を読み、正太郎とキツネの親子の関係をとらえる場面を設定した。登場人物の行動や会話に注目し、前後の文脈から相互関係を判断して心情を読む力が求められる。			
書くこと	4	読書月間について新聞に まとめる	本問題は、自分の考えが伝わるようにするために、適切な図表を用いることができるかどうかをみる問題である。ここでは、目的や意図に応じて、どのような図表を用いれば効果的かを考える力が求められる。なお、同一問題を小5においても出題している。	
話すこと・聞くこと	5	「あいさつキャンペーン」の 取組内容を 話し合う	本問題は、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができるかどうかをみる問題である。ここでは、話し手の問いに対し、共感しつつ新たな考えを提示するなどして効果的に助言をしていることを説明することが求められる。なお、同一問題を小5においても出題している。	

2 調査問題一覧表【設問別】(第6学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式 選択式・ 短答式・ 選短	市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習 に取り組 む態度		正答率 (%)	無解 答率 (%)	出題 年度・ 調査名 【学年】	正答 率 (%)	出題 学年	正答 率 (%)		
		(1)	(2)	(3)	A	B	C												
		言葉 の特徴 や使い 方に関 する事 項	情報 の扱い 方に関 する事 項	我が 国の言 語文化 に関す る事項	話す こと・ 聞くこ と	書く こと	読む こと												
1	(1) ①	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(親)	○						○			選	82.5	0.1	R5市 【小6】	80.6	小3 小4 小5	47.6 66.8 73.0	
	(1) ②	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(始)	○						○			選	79.3	0.0			小5	77.0	
	(1) ③	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(借)	○						○			選	62.8	0.0			中1	82.7	
	(1) ④	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(過)	○						○			選	87.0	0.1					
	(1) ⑤	当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(象)	○						○			選	86.7	0.1					
	(2)	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○							○			選	73.5	0.0	◎R5市 【小6】	69.2	小3 小4 小5	52.3 70.6 66.3
	(3)	文の中の主語と述語の関係を理解することができる。	○							○			選	77.2	0.0	◎R3全国	61.9	小5	70.4
	(4)	文の中の修飾と被修飾の関係を理解することができる。	○							○			選	57.8	0.0	R3全国	41.0	小5	53.3
	(5)	相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができる。	○							○			選	66.7	0.1	◎R5全国	59.5	小5	58.8
2	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけて読むことができる。								○	○		選	75.8	0.1	H30市 【小6】	62.0	小5	71.0	
3	(1)	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえながら読むことができる。							○	○		選	63.3	0.2	◎R2全国	-			
	(2)	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえながら読むことができる。							○	○		選	55.6	0.3	◎R2全国	-			
4	(1)	自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる。							○	○		選	64.9	0.2	R4市 【小5】	73.1	小5	61.3	
	(2)	自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる。							○	○		選	49.5	0.3	◎R4市 【小5】	50.8	小5	42.5	
5	(1) 助言①	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。							○	○		選	58.2	0.3	◎R4市 【小6】	58.9	小5	51.4	
	(1) 助言②	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。							○	○		選	83.8	0.5	◎R4市 【小6】	76.9	小5	77.9	
	(1) 助言③	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。							○	○		選	73.8	0.6	◎R4市 【小6】	72.1	小5	68.7	
	(2)	話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をすることができる。							○	○		選	52.9	1.2	◎R4市 【小6】	60.5	小5	49.5	

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。

調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題等を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校国語 第6学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
1	(1) ① <b>イ</b>	漢字を練習する時は、その漢字を使ったじゅく語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文章の中で使うことを意識して練習しましょう。その時、国語辞典やタブレットをつかって、漢字がもつ意味をとらえ、使える言葉を増やせるとよりよいです。 漢字が正しく書けるようになるには、実際に書いて練習することが有効です。タブレットでの入力だけでなく、実際に書く活動をバランスよく取り入れてください。
	(1) ② <b>ウ</b>	
	(1) ③ <b>イ</b>	
	(1) ④ <b>ア</b>	
	(1) ⑤ <b>イ</b>	
	(2) <b>主語:イ 述語:エ</b>	主語は、言葉の最後が「～は」「～が」「～も」で終わっているものさがしましょう。述語は、文の終わりに注目してさがしましょう。その時に主語と述語をつなげて意味が分かるかを確認しましょう。ふだんから、主語と述語を意識して文を読んだり書いたりすることが大切です。
	(3) <b>ウ</b>	
	(4) <b>ウ</b>	くわくする言葉とされる言葉の関係をとらえるためには、くわくする言葉とされる言葉の二つの言葉のまとまりに着目し、意味の通るまとまりになっているかを確認することが大切です。
	(5) <b>ア</b>	敬語(けいご)には「尊敬(そんけい)語」「謙譲(けんじょう)語」「丁寧(ていねい)語」があります。その中の「謙譲語」と「尊敬語」は、その動作が「だれの動作」かによって使い分ける必要があります。自分や身内の動作の時は「謙譲語」、相手や話題となる人の動作は「尊敬語」となります。
2	<b>エ</b>	案内を見て、「衣・食・住でつながる世界の文化交流展(ぶんかこうりゅうてん)」のねらいとは何かを考えながら読んでみましょう。文章と図表などを結び付けながら情報を取しゃ選たくしたり、整理したりして読むと、書き手の意図を理解しやすくなります。
3	(1) <b>ア</b>	作者が、「正太郎は、じじ、とまぶたのおくが熱くなるのをおぼえた。」という表現で何を伝えたいのかを考えながら文章を読んでみましょう。登場人物の言動よりも前にきっかけとなる出来事があるので、問題にあげられている文の前後をていねいに読むことが大切です。
	(2) <b>イ</b>	目の前の状況を見て正太郎が何を感じているのか、朝日に「まばゆい」、足あとに「金色にかがやいて」という表現とあわせて考えながら文章を読んでみましょう。本問題の「かがやかしい」のように、登場人物の心情を表現する言葉はたくさんあります。多くの本を読むことで、豊かな表現にふれるとよいでしょう。
4	(1) <b>イ</b>	新聞などで資料を使うときには、自分の伝えたいことに合わせて「どのような資料を入れると、より効果的か」をよく考えることが大切です。
	(2) <b>ア</b>	見出しをつけるときには、まず、「何を伝えたいのか」をはっきりさせましょう。そして、どうしたら読み手の関心をひきつけることができるのかを考えて、「言葉の順序を変えて強調する」「よびかける表現にする」「キーワードで伝える」など、表現の仕方を工夫してみましょう。
5	(1) 助言① <b>エ</b>	助言をする際には、相手の立場や状況に合わせて、共感的な態度で相手が話す内容を理解していくことが重要です。また、具体的な意見や提案を一方向的に伝えるのではなく、相手が自ら課題を解決できるように助言をすることが大切です。助言をし合っている様子をグループ同士で見合うことで、どんな助言の仕方が有効であったかを確認してみると効果的です。
	(1) 助言② <b>ア</b>	
	(1) 助言③ <b>ウ</b>	
	(2) <b>ア</b>	

## 4 特徴的な問題と解説

### 小学校第5・6学年 国語 「読むこと」

○問題 (5年) 大問<sup>2</sup> (6年) 大問<sup>2</sup>

#### 【出題の趣旨】

本問題は、《目的に応じて文章と図を結び付けながら必要な情報を見付けること》ができるかどうかをみる問題である。そのため、「衣・食・住でつながる世界の文化交流展」が開かれるねらいを考える場面を設定した。ここでは、複数の情報を関係付けながら、文章を読む力が求められる。

#### 【指導のポイント】

【文化交流展の案内①】

衣・食・住でつながる  
世界の文化交流展

第1期  
「衣」でつながる世界

2025年1月10日(金) - 2月16日(日)

開かん時間：午前9時30分 - 午後5時  
休かん日：月曜日  
入場料：一般300円  
大学生・高校生200円  
中学生以下無料

第2期：「食」でつながる世界  
2月21日(金) - 3月23日(日)

第3期：「住」でつながる世界  
3月28日(金) - 4月27日(日)

さいたま市立○○博物館  
〒33X-XXXX さいたま市○○町XX-X  
電話 XXX-XXX-XXXX

#### 1 読む目的を明確にして読む。

説明的な文章を読むときには、目的に応じて必要な情報を見付けることが大切である。読む目的は、書き手が伝えたいことを知るため、読み手の知りたいことを調べるため、知的好奇心を満たすため、自分の表現活動に生かすためなど様々である。

本問題においては、「衣・食・住でつながる世界の文化交流展」の案内を通して、イベントの目的を理解することが大切である。具体的な指導としては、「題名」や「解説」などの文章と「展示内容」のような図表を結び付けて読むことが考えられる。

【文化交流展の案内②】

「文化交流」というとむずかしいように感じますが、わたしたちはふだんの生活の中で、さまざまな文化にふれていくのです。

「衣・食・住でつながる世界の文化交流展」の第1期は、「衣」をテーマに世界の文化にふれていきます。わたしたちのふだんの生活の中にある「文化交流」を実感してみてください。

【「衣」でつながる世界】

現在、わたしたちは衣服を着て、生活しています。衣服には、暑さや寒さに対する機能的な側面、見た目の美しさなどの文化的な側面があります。近年では、日本の伝統的な衣装である着物のよさが、改めて注目されています。

(写真：zakkee / PIXTA)

【展示内容(1)展示案内】

展示コーナー② 地域・気候による衣服の変化	展示コーナー① 衣服の歴史
展示コーナー③ 世界の民族衣装	展示コーナー④ 注目される日本の着物

#### 2 目的に応じて情報を関係付けながら情報を得る。

#### ちらしやポスターについての記述

一箇所を見るのではなく、複数箇所を見ることによって、必要な情報を得られる場合があることに気付くように指導することが重要である。

#### 新聞

目的に応じて、見出し、リード文(全文)、本文を読む順番をすることが大切である。文章とグラフ、写真や挿絵などを結び付けて読むことが大切である。

【展示コーナータイズ】

◆展示コーナー①「衣服の歴史」

(1) レインコートのもとになった民族衣装は？

⇒答えは3のタブをクリック

(写真：UTOIMAGE / PIXTA)

#### 【授業活用例】

○目的に応じて、情報に下線を引いたり色分けをしたりしながら整理する。

○集めた情報を関係付けることで得られる情報について話し合う。

○同じ目的で書かれた複数のちらしやパンフレットなどを読み比べ、情報の提示方法を比較する。

【文化交流展の案内③】

◆展示コーナー①「衣服の歴史」

(1) レインコートのもとになった民族衣装は？

その民族衣装ポンチ

ポンチ型のレインコートをよく見かけるね。

(写真：Elmar / PIXTA)

(参考) ・国立教育政策研究所「平成28年度 全国学力・学習調査 報告書 中学校 国語」

【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

<小学国語・6年 読むこと>

〈单元名〉 レビューしよう

〈教材名〉 「雪は新しいエネルギー」 既習の教科書教材（教育出版6年上）  
 （必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりできる作品）

〈主な指導事項〉 「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。

【思考力・判断力・表現力等】C（1）ウ

〈言語活動とその特徴〉

中学年までに学習した「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」を受けて、5・6年生では目的に応じて文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりする力（指導事項C（1）ウ）を付けていく。

そこで、資料を使用した効果や意図について思考を働かせながら読むことができるように「資料を用いた説明を分析してレビューする」言語活動を設定した。

〈单元計画〉

次	時	主な学習活動	○学習内容
一	1	①学習のゴールを知る。	
		②学習計画を立てる。	
二	2 3 4	③教材「アイスは暑いほどおいしい？」をもとに、説明文の読み方を想起する。	
		④筆者の主張を捉える。	
		⑤筆者の説明の仕方を考える。 *2～4時は、学習後にレビューを書く。	
三	5 6	⑥自分が選んだ本のレビューをまとめる。	
		⑦友達のレビューをもとに、本を読む。	

並行読書

1 時間目の導入



（実物を見せて）「白神山地からの提言」のレビューを書きました。

レビューは、聞いたことはあるけれど何だろう。飲食店や本のレビューは、見たことあるよ。



レビューというのは、評価することです。今回は、「雪は新しいエネルギー」をもとに、筆者の主張を理解したり、文章の工夫を見付けたりしていきます。また、「効果的だ」や「伝わりづらい」などと感じたことを言葉と数字で評価します。

2時間目～4時間目の終末



今日の学習を通して、筆者の説明の仕方についてどのように考えましたか。評価とその理由を文章でまとめましょう。

【評価するとき役立つ言葉】

肯定的な評価	否定的な評価
納得だ	納得できない
適切だ	いまいちだ
理解できる	理解しにくい、難しい
伝わりやすい	伝わりづらい
一目で分かる	分かりにくい
非常に分かりやすい	いまいちだ
ふさわしい	という考えもあるようだ
効果的だ、優れている	あまり効果がない
想像しやすい	想像しにくい、難しい
抜群に～である	おとっている
実に～である	よくない
秀逸な～である	好ましくない

空いているところは、自分が見付けた言葉を書きましょう。

(3時間目終末) 文章だと伝わりづらいところも、図5があると日本の国土の半分以上は雪国だと一目で分かった。よいところを1つ見付けたから、評価は、1～5のうちの4にしようかな。



〈言語活動のモデル〉

**雪は新しいエネルギー** 事例の内容 ※3

「氷室」のように昔からの技術が、今でも生かされているのは、納得しやすい。

**図・グラフの使い方 ※2**

日本の国土の半分以上は雪国だということが、一目で分かる。

**事例の順序 ※3**

昔から、冬の氷や雪をたくわえておく「氷室」の例から、「ガラスのピラミッド」「新千歳空港」と大きな場所が変わっていくのは、想像しやすい。

**絵や写真の使い方 ※2**

札幌市の雪山には、毎日雪を積んだ大型トラックが何台もくることが想像しやすい。

**論の進め方 ※1**

問いかけ、身近な事例、筆者の考えと話を進めているのが、効果的だ。

同じ文章を読んでも、レビューは一人ひとり違うね。〇〇さんのレビューは、複数が理由あって説得力があるな。



5時間目



「雪は新しいエネルギー」の学習を生かして、自分が選んだ本についてレビューしましょう。

V 中・中等教育学校 第1学年

I 調査問題【出題の趣旨】

<p>話すこと・聞くこと 言葉の特徴や使い方に関する事項</p>	<p>1</p>	<p>スピーチをする</p>	<p>読書についてのスピーチ練習をする場面を設定した。自分の考えが分かりやすく伝わるように、資料を活用したり、表現を工夫したりして話すこと、日常よく使われる敬語を理解し使うことを求めている。</p>
<p>書くこと 言葉の特徴や使い方に関する事項</p>	<p>2</p>	<p>意見文を書く</p>	<p>「思いを伝えたいときには、『手紙』と『メールやSNS』のどちらがよいか」というテーマで意見文を書く場面を設定した。文章を読み返したり読み手から助言を受けたりしたことを踏まえ、文や段落の役割を意識して文章を整えることを求めている。</p>
<p>読むこと 言葉の特徴や使い方に関する事項</p>	<p>3</p>	<p>文学的な文章を読む</p>	<p>『銀のうさぎ』という作品を取り上げた。登場人物の心情の変化や行動などについて、描写を基に捉えたり解釈したりすることや、語句の文脈上の意味に注意して、表現の効果について考えることを求めている。</p>
<p>我が国の言語文化に関する事項 言葉の特徴や使い方に関する事項</p>	<p>4</p>	<p>漢字 文や文章 伝統的な言語文化 書写</p>	<p>音訓や意味、用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を使うこと、主語と述語との関係について理解すること、歴史的仮名遣いを理解すること、漢字の行書の特徴を理解することを求めている。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】(第1学年)

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等						評価の観点			問題形式			市		過去同一問題等		複数学年での出題			
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式・短	正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名(1学年)	正答率(%)	出題学年	正答率(%)				
		(1)	(2)	(3)	A	B	C														
		言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと														
①	1	自分の考えが伝わるように、話す内容との整合に注意しながら資料を活用することができるかどうかをみる。					○			○		選	78.5	0.2							
	2	日常よく使われる敬語を理解し使うことができるかどうかをみる。	○							○		選	79.2	0.0							
	3	自分の考えが明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して、話の構成を考察することができるかどうかをみる。						○			○		選	63.6	0.1						
	4	音声の働きや仕組みを生かし、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる。	○					○			○		選	34.6	0.2	R4全国(記述式)	55.7				
②	1	書いた文章を読み返し、文や段落の役割が適切であるか検討し、文章を整えることができるかどうかをみる。						○			○		選	58.1	0.1	R3全国	26.0				
	2	読み手からの助言を踏まえて、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えているかどうかをみる。							○			○		選	36.7	0.1	R4市【中1】	46.8			
	3	接続する語句の役割について理解し、文章全体の中での段落の役割を考察することができるかどうかをみる。	○						○			○		選	72.7	0.1	R5市【中2】	70.1			
	4	根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる。							○			○		選	75.2	0.1					
③	1	登場人物の心情について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。							○		○		選	80.2	0.1						
	2	登場人物の行動や情景について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。								○		○		選	85.2	0.2					
	3	慣用語の意味を理解し、使うことができるかどうかをみる。	○										短	79.8	1.3						
	4	場面の展開や、登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。								○		○		選	52.9	0.3					
	5-I	語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、表現の効果について根拠を明確にして考察することができるかどうかをみる。	○							○			短	52.6	4.0						
	5-II												短	45.5	3.9						
	6	登場人物の心情について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。								○		○		選	71.1	0.7					
7	場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することができるかどうかをみる。								○		○		選	60.1	0.7						
④	1(1)	文脈に即して漢字を使うことができるかどうかをみる。(映る)	○								○		選	75.6	0.7	◎R4市【中1】	67.7	中2	72.7		
	1(2)	文脈に即して漢字を使うことができるかどうかをみる。(借りる)	○								○		選	82.7	0.7			小6	62.8		
	2-主語	主語と述語との関係について理解しているかどうかをみる。	○									○		選	57.3	0.8		61.6	中2	61.1	
	2-述語												選	81.2	0.9	◎R4市【中1】	86.1		83.8		
	3(1)①	文語のきまりを理解しているかどうかをみる。(いひければ)						○				○		短	70.5	4.2			中2	83.9	
	3(1)②	文語のきまりを理解しているかどうかをみる。(かへしむ)						○				○		短	39.4	6.1			中2	51.4	
3(2)	漢字の行書の基礎的な書き方を理解しているかどうかをみる。						○				○		選	79.6	1.7	R5市【中1】	84.5				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。  
 複数ある場合は、代表的なものを挙げて(同一問題には◎を付けている)。  
 調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査  
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。  
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。  
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。  
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校国語 第1学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等	
①	1	ウ	発表原稿を読むと、下線部①②はそれぞれ「こちらの結果……」と、資料を指し示していることが分かります。したがって、下線部に続いて述べている内容に合う資料を考えていきます。下線部①で指し示している資料からは、「昨年から読書量が減ったと感じている人の割合が5割近く」であることが分かる資料なので、資料A、下線部②で指し示している資料からは、「読書の必要性を感じないという人が多い」ことが分かる資料なので、資料Cとなります。従って、ウが正答となります。
	2	エ	先生に対する敬意を表現する敬語としては、相手の行為を高める「尊敬語」か、自分の行為を控えめに言う「謙譲語」を用いることが考えられます。ここでは、「言う」という「先生」の行為を高めるので、尊敬語を用いることとなります。したがって、「言う」の尊敬語である「おっしゃる」が正答です。なお、「ウ」おっしゃられるは、尊敬語の「おっしゃる」と、同じく尊敬の意を表す「られる」を重ねた「二重敬語」と言われ、適切ではない表現とされています。
	3	イ	先生からのアドバイスを確認すると、「それぞれの企画がどういったものなのか説明を加えたほうがよい」と言っており、企画の具体的な説明を加えることを助言しています。説明を加えることにより、より分かりやすく伝えることが考えられるので、正答はイとなります。
	4	エ	先生のアドバイスを踏まえたちえみさんの工夫なので、アドバイスに正対した工夫であることが求められます。いずれの選択肢も、発表の工夫の方法として考えられる内容ですが、「言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して話す」というアドバイスの関連から、適切でないものとしてエが正答となります。
②	1	ウ	書いた文章を読み返す際には、読み手の立場に立って、語句や文の使い方、段落相互の関係等に注意して確かめていくことが大切です。A「から(だ)」は、先に述べたことの原因、理由、根拠を表す助詞であり、直前の文で述べている意見の理由であることをより明確にすることができるため、ウが正答となります。
	2	イ	書き足された②段落の役割を考えることが求められます。ここでは選択肢がいずれも沢田さんの意見との関連についての内容なので、沢田さんの意見を確認すると、「『手紙』がよい」と述べています。一方、②段落の内容を読むと、手紙について「相手に届くまでの時間がかかってしまう」という反対意見を述べていることが分かるので、正答はイとなります。
	3	エ	前後の語句や文などをつなぐ働きをもつ接続する語句の働きについての問いです。空欄の前後で、どのような内容のつながりがあるのか確認すると、前に述べたことと反対の内容を述べているため、エが正答となります。
	4	ウ	自分の考えが伝わる文章になるように、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠となる事例を文章の中に記述することなどが考えられます。書き加えようとしている文章は、③段落の沢田さんの意見を支える根拠として示す位置付けであると捉えられるため、正答はウ「③段落の後ろ」となります。
③	1	ウ	リード文や下線部の前後を読むと、両親が収入を得るために毎日必死で働いている様子と、そんな両親や家族のために、何もできない修のもとかしさが伺えます。百円玉をもらう気がしないのは、そうした思いが表れているものと捉えられるため、正答はウとなります。
	2	イ	下線部の前後を読むと、「長くつをはきながらバス代の百円玉を出す」「朝飯もそこそこ」「七時十分～～バス停まで行かなくては行けないのだ」「あわてて出て行った」という表現から、母親が朝からせわしなく動いている様子が伺えるので、正答はイとなります。
	3	猫/ねこ/ネコ	人手が足りないことを言い換える問いです。ここでは、猫の手助けでもいいと思うほど忙しいことを表す慣用語「猫(の手も借りたい)」が正答となります。
	4	ア	Aの部分の修の心情は「大またの足を運んだ」「一足ごとに進んでいく充実感を体を軽くした」という快さから、大滝の集落が見えてきてからの「修をめぐらせた」「だれが見ているわけでもないのに一話している声が聞こえてくるような気がした」という憂鬱な気分、「つまらぬことをしたと後悔した」という変化を述べています。したがって、アが正答となります。
	5-I	気付き	「そしらぬ」とは、知っているのに知らないふりをするさまを表します。また、「よそおう」とは、いかにもそれらしく見せかけることを表します。ここでは、修を連れて来たバスの存在に対して「そしらぬ顔をよそおう」しています。空欄に当てはめるのは同じ単語であり、三字で答えることが条件となっているので、「気付く」を空欄に合わせて解答します。
	5-II	気付か	
	6	ア	下線部の前の段落を読むと、「運転手がちらちらと修を見た」「窓側の人がみんなこちらを見ている」「目線だけは無遠慮に修をつかまえてはなざなかつた」「みんなの首が少しずつつねじれていく」と、修は終始、バスの乗客の目線を過度に気にしていることがわかります。さらに、下線部直後から、バスの乗客に見られたことによる屈辱感が読み取れます。これらのことを考え、正答はアとなります。
7	ウ	本文の前半には「手のひらの百円玉の中に自分の存在がなにもかもあって、これから先も、ひとにぎざぎざ減っていくような気がしてならなかった」という記述があります。その百円玉を使わなかったことを、「百円玉をゆっくりにぎって」改めて確認したことで、修は「明日も歩いてやる」という小さな決心をしたことが書かれています。したがって、正答はウとなります。	
④	1(1)	ア	文脈に即して「うつ(る)」の漢字を問うものです。空欄前後から、「水に反射する」という意味であることが判断されるので、正答はアとなります。
	1(2)	ア	他人のものを一時的に自分のものとして使用する意味の「か(りる)」の漢字を問うもので、正答はアとなります。
	2-主語	エ	文中の主語と述語を指摘する問いです。まずは述語を探します。述語は「どうする、どんなだ、何だ」を表し、原則として文の一番最後にくるので、「才 置かれた」となります。一方、主語は、述語の主体となります。「『何が』置かれたのか」を探すと、「エ 資料が」が導き出されます。
	2-述語	オ	
	3(1)①	いければ	古文のさまりの一つである、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いです。語頭以外の「は」はひ、ふ、へ、ほは「わい・いう・え・お(わ行)」に直すこと、「む」は「ん」に直すさまりに従い、正答例のように直します。
	3(1)②	かえしせん	
	3(2)	イ	行書の特徴について理解しているかを問うものです。行書の特徴として、点や画の形が丸みをおびる場合があること、点や画の方向及び止め、はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどが挙げられるので、イが正答となります。

## 4 特徴的な問題と解説

### 中・中等教育学校 第1学年 国語 「話すこと・聞くこと」

#### 【特徴的な問題】

#### 問題 1 スピーチをする（読書について）

1 図書委員長のちえみさんは、全校朝礼で、読書について発表することになりました。ちえみさんは発表の練習を動画に記録し、先生に動画と【発表原稿】を見せてアドバイスをもらっています。次の【発表原稿】と【二人の会話】を読んで、右の問いに答えなさい。

##### 【発表原稿】

みなさん、こんにちは。私は図書委員長の北原ちえみです。今日は、読書について、みなさんに回答してもらったアンケート結果をもとに発表します。発表を聞いて、みなさんの読書生活が豊かなものになればうれいです。

まず、アンケート結果について発表します。はじめに、こちらの結果によると、昨年から読書量が減ったと感じている人の割合が5割近くを占めていることがわかります。次に、こちらの結果をご覧ください。この結果からは、読書の必要性を感じないという人が多いことがわかります。これはとても残念な結果です。読書は、知識や情報を得たり、感性を豊かにしたりすることができる、とても有意義なものです。私はみなさんに、読書のよさをもっと知ってほしいと思います。

《そこで図書委員会では、「ブックトーク」や「ピピリオバトル」、そして「選書サービス」という3つの企画を用意しました。》これらの企画を通して、みなさんも本の世界を楽しんでみませんか。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

##### 【二人の会話】

発表原稿の《 》の部分ですが、それぞれの企画がどういったものなのか説明を加えたほうがよいと思います。

「そこで図書委員会では、友達同士で本を薦め合う『ブックトーク』や読んだ本の書評を競い合う『ピピリオバトル』、そして図書委員が利用者の好みに合わせて本を選んでくれる『選書サービス』という3つの企画を用意しました。」という文に変わってはどうですか。



ちえみさん

先生の言う伝え方であれば、聞いている人によりよく伝わりそうですね。ありがとうございます。



先生

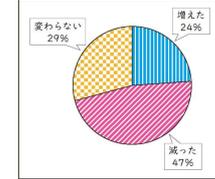
言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意して話すと、さらによくなると思います。例えば、伝えたい内容に特に関係する部分は、話し方を工夫するといよいのではないのでしょうか。



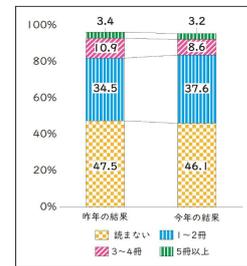
ちえみさん

なるほど、わかりました。考えてみたいと思います。

##### 【資料A】ここ一年の自分の読書量



##### 【資料B】1ヶ月に大体何冊くらい本を読むか



##### 【資料C】自分にとっての読書を妨げる要因は何だかと思うか（上位3項目）

読書の必要性を感じない	36.3%
勉強や部活で時間がない	34.8%
本の選び方がわからない	14.2%

#### 【出題の趣旨】

読書についてのスピーチ練習をする場面を設定した。自分の考えが分かりやすく伝わるように、資料を活用したり、表現を工夫したりして話すこと、日常よく使われる敬語を理解し使うことを求めている。

#### 【指導のポイント】

##### ○音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す。

自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切である。指導に当たっては、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。」との関連を図り、アクセント、イントネーション、プロミネンス（文中のある語を強調して発音すること）などの音声的特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることが認識できるように、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認したりすることが重要である。

例えば、ICTを活用して、参考となるスピーチからその表現の工夫を分析したり、スピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返り、工夫したことの効果を確認したりするなどの学習活動が考えられる。その際、聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら話す内容や話し方を検討したり、なぜそのように表現を工夫したのか、その意図を明確にして工夫したことの効果を確認したりする場面を設定することも考えられる。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

## 【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

「スピーチの達人に学ぼう!」～音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す～

〈本アイデア例と関連する問題及び学習指導要領における内容〉

### 設問Ⅰ

〔第1学年〕知識及び技能 (1)

ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 A

ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

### 教材

- 参考となるスピーチ動画

### 学習の流れ

#### 第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

聞き手に分かりやすく伝わるように工夫してスピーチをする学習をします。  
スピーチの動画を参考にしながら表現を工夫して、自分のスピーチに生かしましょう。

※学習活動だけでなく、目標を共有する。必要に応じ、ルーブリックを提示することも考えられる。

② 紹介や報告などを行っているスピーチ動画を視聴し、表現の工夫について分析する。



#### 分析の視点(例)

- ・話し手の目的   ・想定される聞き手(年齢、属性、話題について詳しいか否か等)
- ・話す順序とその効果   ・言葉遣いとその効果
- ・話し方(言葉の抑揚や強弱、間の取り方)とその効果

※視聴する動画は、上級生や先生のスピーチ、スピーチコンテスト等が考えられるが、「よいスピーチ」だと感じる動画を各自で探し、それぞれの「よさ」を分析していくことも考えられる。

※分析の視点(例)については、教師があらかじめ視点として生徒に与えることもできるが、生徒自身が分析・分類していく際に想定される視点として扱うことも考えられる。

③ 分析した内容を共有し、聞き手に分かりやすく伝わる工夫についてまとめる。

## 第2時

### ④ スピーチ内容を考える。

例 「私の推している戦国武将」「部活動を通して学んだこと」「心に残った友達の一言」  
「今気になっているニュース」「私の家族を紹介します」

※内容は紹介や報告とし、題材は身の回りのものから選ぶ。

### ⑤ ②③で分析したことを生かしながら、スピーチ原稿を作成する。



教師

原稿には話す内容だけでなく、話す目的や想定する聞き手、表現の工夫を書きましょう。表現を工夫する際には、どうしてそのように工夫するのか、その意図についても明確にしておきましょう。

[生徒が表現の工夫を書き加えたワークシートの一部]

テーマ「私の推している戦国武将」

話す目的(聞き手にどうなってほしいか)  
自分の思いや戦国武将から学べることを知ってもらおう  
想定する聞き手(話題についてどれくらい知っているか)  
クラスの友達(歴史に興味がある人もない人もいる)

私が推している戦国武将は、織田信長です。信長は、戦国時代(はつきり読解する)に多くの戦を戦い抜き、最も影響力のある武将の一人として知られています。私は信長の「革新力」と「大胆さ」に惹かれています。

~~~~~

信長が築いた基盤は、後の豊臣秀吉や徳川家康によって引き継がれ、最終的に戦国時代を終わらせる大きな力となりました。信長の生き様(少し間を取る)を知ること(大きな声でゆっく)で、私も自分の目標に向かつて、挑戦し続ける勇気(大きな声でゆっく)をもちたいと思っています。

### 原稿作成上の留意点(例)

- ・話す目的はなんだろう。(聞き手にどうなってほしいか)
- ・聞き手はどのような人だろう。自分の選んだ話題についてどれくらい知っているだろう。
- ・どのような順序で話をすると分かりやすいだろうか。
- ・どのような言葉遣いが効果的だろうか。
- ・どの場面でどのような話し方(言葉の抑揚や強弱、間の取り方)をすると効果的だろうか。

### 第3時

- ⑥ 表現の工夫とその意図について、実際に声に出したり、相互に動画を撮り合ったりしながら意見を交換する。

※クラウド上で動画を共有し、互いにコメントを入れ合う活動を行うことも考えられる。

- ⑦ 友達の意見や撮影した自分の動画をもとに、改めて表現を検討する。

### 第4時

- ⑧ スピーチをし合い、互いに意図した工夫が効果的であったかフィードバックを行う。

※クラウド上で動画を共有し、互いにコメントを入れ合う活動を行うことも考えられる。

- ⑨ 学習を振り返る。



教師

単元を通して気付いたことや学んだこと、自分の学び方について、振り返りましょう。

#### 振り返りの観点(例)

- ・紹介や報告などをする際の表現の工夫について気付いたことや学んだことはどのようなことか。
- ・この学習で気付いたことや学んだことを今後どのように生かしていきたいか。
- ・自分の学習への取り組み方、学び方はどうだったか。

※振り返りは、個人で行うとともに、クラウド上で内容を共有したり、複数人で交流したりすることが考えられる。

〈本アイデア例を活用する際のポイント〉

- 他教科等の学習や学校行事等との関連を図り、本単元を位置付けることも有効である。

〔例〕「〇〇について調べたことを報告しよう」(総合的な学習の時間)

「小学6年生に中学校生活を紹介しよう!」(つばみの日)

〈関連する指導事例〉

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(小学校国語)  
「『私たちにできる SDGsを提案しよう』～資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する～」
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書(中学校国語)授業アイデア例  
「音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す」

VI 中・中等教育学校 第2学年

I 調査問題【出題の趣旨】

|                                   |   |                              |                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------|---|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと                         | 1 | 話し合いをする                      | これからの中学校の部活動について、生徒会で話し合う場面を設定した。目的に応じて必要な資料を用いながら話したり、互いの立場や考えを尊重しながら話し合ったりすることや、敬語を話の中で使うことを求めている。                                                                        |
| 書くこと                              | 2 | 意見文を書く                       | 「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書く場面を設定した。自分の考えが伝わる文章になるように、根拠の適切さを考えて説明や具体例などを加えたり、読み手の立場に立って表現の効果などを確かめて文章を整えたりすることを求めている。                                                         |
| 読むこと<br>言葉の特徴や使い方に関する事項           | 3 | 説明的な文章を読む                    | 『イネという不思議な植物』という文章を取り上げた。接続する語句の役割について理解し、文章の構造を捉えることや、目的に応じて適切な情報を得たり、文章と図表を結び付けたりして内容を解釈すること、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることを求めている。                                            |
| 我が国の言語文化に関する事項<br>言葉の特徴や使い方に関する事項 | 4 | 漢字<br>文や文章<br>書写<br>伝統的な言語文化 | 音訓や意味、用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を使うこと、主語と述語との関係について理解すること、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することを求めている。<br>また、古典は『古本説話集』を取り上げた。現代語訳を手掛かりにして作品を読むことを通して登場人物の心情などを想像することや、歴史的仮名遣いを理解することを求めている。 |

2 調査問題一覧表【設問別】(第2学年)

| 設問番号 | 設問のねらい                             | 学習指導要領の領域等                                                 |              |                |              |      |      | 評価の観点 |          |               | 問題形式       |        | 市       |                    | 過去同一問題等            |              | 複数学年での出題 |      |
|------|------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------------|----------------|--------------|------|------|-------|----------|---------------|------------|--------|---------|--------------------|--------------------|--------------|----------|------|
|      |                                    | 知識及び技能                                                     |              |                | 思考力・判断力・表現力等 |      |      | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | 選択式・短答式・短文 | 正答率(%) | 無解答率(%) | 出題年度・調査名(学年)       | 正答率(%)             | 出題学年         | 正答率(%)   |      |
|      |                                    | (1)                                                        | (2)          | (3)            | A            | B    | C    |       |          |               |            |        |         |                    |                    |              |          |      |
|      |                                    | 言葉の特徴や使い方に關する事項                                            | 情報の扱い方に關する事項 | 我が国の言語文化に關する事項 | 話すこと・聞くこと    | 書くこと | 読むこと |       |          |               |            |        |         |                    |                    |              |          |      |
| ①    | 1                                  | 自分の考えを分かりやすく伝えるために、目的に応じて必要な資料を用いながら話すことができるかどうかをみる。       |              |                |              | ○    |      |       | ○        |               | 選          | 31.3   | 0.2     |                    |                    |              |          |      |
|      | 2                                  | 話し合いを円滑に進行するために、互いの立場や考えを尊重しながら話し合うことができるかどうかをみる。          |              |                |              | ○    |      |       | ○        |               | 選          | 76.0   | 0.3     |                    |                    |              |          |      |
|      | 3                                  | 敬語の働きについて理解し、話の中で使うことができるかどうかをみる。                          | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 短          | 53.6   | 0.9     | R5市【中2】<br>R4市【中2】 | 65.3<br>70.3       |              |          |      |
|      | 4                                  | 話し合いを円滑に進行するために、互いの立場や考えを尊重しながら話し合うことができるかどうかをみる。          |              |                |              | ○    |      |       | ○        |               | 選          | 59.4   | 0.2     |                    |                    |              |          |      |
|      | 5                                  | 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる。          |              |                |              | ○    |      |       | ○        |               | 選          | 70.9   | 0.2     |                    |                    |              |          |      |
| ②    | 1-A                                | 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる。 |              |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 51.9   | 0.3     |                    | R3全国(完答)           | 26.0         |          |      |
|      | 1-B                                | 説明や具体例などの表現の工夫とその効果などについて、文章のよい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる。    |              |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 21.3   | 0.9     |                    |                    |              |          |      |
|      | 3                                  | 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。               |              |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 38.5   | 0.4     |                    | R3全国(記述式)          | 77.4         |          |      |
|      | 4                                  | 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。               |              |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 75.6   | 0.3     |                    |                    |              |          |      |
| ③    | 1                                  | 接続する語句の役割について理解し、文章の構造を捉えることができるかどうかをみる。                   | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 84.4   | 0.3     |                    | R5市【中2】            | 70.1         |          |      |
|      | 2                                  | 文章と図表を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。                  |              |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 52.7   | 0.4     |                    | R5市【中2】            | 36.7         |          |      |
|      | 3-I                                | 目的に応じて適切な情報を得て、内容を解釈することができるかどうかをみる。                       |              |                |              |      |      |       | ○        |               | 短          | 69.4   | 8.9     |                    |                    |              |          |      |
|      | 3-II                               | 目的に応じて適切な情報を得て、内容を解釈することができるかどうかをみる。                       |              |                |              |      |      |       | ○        |               | 短          | 53.4   | 12.7    |                    |                    |              |          |      |
|      | 4                                  | 目的に応じて適切な情報を得て、内容を解釈することができるかどうかをみる。                       |              |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 78.8   | 0.6     |                    |                    |              |          |      |
| ④    | 1(1)                               | 文脈に即して漢字を使うことができるかどうかをみる。(映る)                              | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 72.7   | 0.6     |                    | ◎R4◎【中1】           | 67.7         | 中1       | 75.6 |
|      | 1(2)                               | 文脈に即して漢字を使うことができるかどうかをみる。(推し)                              | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 52.1   | 0.6     |                    | R5全国               | 45.3         |          |      |
|      | 2-主語                               | 主語と述語との関係について理解しているかどうかをみる。                                | ○            |                |              |      |      |       | ○        |               | 選          | 61.1   | 0.6     | ◎R4◎【中1】           | 61.6               | 中1           | 57.3     |      |
|      | 2-述語                               |                                                            |              |                |              |      |      |       |          |               |            | 83.8   | 0.6     |                    | 86.1               |              | 81.2     |      |
|      | 3(1)①                              | 文語のきまりを理解しているかどうかをみる。(いひければ)                               |              |                |              | ○    |      |       | ○        |               | 短          | 83.9   | 3.8     |                    |                    |              | 中1       | 70.5 |
|      | 3(1)②                              | 文語のきまりを理解しているかどうかをみる。(かへしせむ)                               |              |                |              | ○    |      |       | ○        |               | 短          | 51.4   | 5.8     |                    |                    |              | 中1       | 39.4 |
|      | 3(2)                               | 現代語訳を手掛かりに作品を読むことを通して、登場人物の心情などを想像することができるかどうかをみる。         |              |                |              | ○    |      |       | ○        |               | 選          | 34.3   | 0.8     |                    | R5市【中2】<br>R4市【中2】 | 52.9<br>54.7 |          |      |
| 3(3) | 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解しているかどうかをみる。 |                                                            |              |                | ○            |      |      | ○     |          | 選             | 71.6       | 1.1    |         | R5市【中2】<br>R4市【中2】 | 78.5<br>70.6       |              |          |      |

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げて(同一問題には◎を付けている)。調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査「全国」:全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を問題として出題している問題を示す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校国語 第2学年】

| 設問番号 | 正答例   | 考え方<br>ワンポイントアドバイス<br>これまでの学習のつながり 等                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①    | 1     | ウ                                                                                           | ここでのけんたさんの発言を読むと、「この資料(=Ⅳ)」から、高校での部活動に「新しい種目や活動を行えること」を期待しているを読み取った上で、下線部では「こちらの資料」の内容と関連させ、「中学校の部活動に満足できなかった」ことを推測しています。それぞれの資料を確認すると、学校の部活動に参加しない理由として「参加したい種目や活動を行う部がないから」という回答が上位に見られる、ウ「資料Ⅲ」が正答となります。                                                                                                    |
|      | 2     | ウ                                                                                           | 話し合いにおいては、その状況を捉えて、話し合いが進展するような発言をすることも大切です。ここでは、直前のあきさんの発言を「そうだね」と受けた上で、自分自身の部活動への関わり方についての考えを述べています。あきさんの発言の、高校の部活動に対する「新しいことへの好奇心や、部活動の多様性への期待感を抱いている、より意欲的な考え方」をより具体化した内容と捉えることができるため、正答はウとなります。                                                                                                          |
|      | 3     | (教えて)いただいた                                                                                  | 問題文に「コーチに対する敬意が表現できるように」とあります。「(教えて)もらった」のは、話し手であるかおりさんなので、かおりさんの行為を控えるに言う「謙譲語」に直す必要があります。従って、「いただいた」が正答となります。なお、「(教えて)くださった」は、「(教えて)くれた」コーチの行為を高める「尊敬語」となり、「コーチが」という主語で構成された文であれば正しい表現となりますが、ここでは文脈に合わないため、誤答となります。また、「いただいた」を一つの動詞として扱う際は、「頂いた」とすることができず、ここでは実質的な意味が薄れ、補助的なたらしきをする補助動詞となるため、基本的にはひらがなで表します。 |
|      | 4     | ウ                                                                                           | 話し合いを円滑に進行するために、話し合いに参加している者が、それぞれ置かれた立場や意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりすることが重要です。けんたさんは、みなさんの発言を詳しく聞くことで、その考えの前提にある立場や背景について理解しようとしていることが考えられます。従って、正答はウとなります。                                                                                                                                                   |
|      | 5     | エ                                                                                           | 話し合いの際には、互いの考えを捉える中で見いだした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえ、一定の結論に向かって考えをまとめることが大切です。りょうさんは、これからの中学校の部活動について、話し合いで挙げられたそれぞれの意見から結論を導こうとしています。資料から読み取れたことやかおりさん、みなさんの発言に見られた内容からまとめていくと、正答はエとなります。                                                                                                                            |
| ②    | 1-A   | エ                                                                                           | 書いた文章を読み返す際には、読み手の立場に立って、語句や文の使い方、段落相互の関係等に注意して確かめていくことが大切です。A「から(た)」は、先に述べたことの原因、理由、根拠を表す助詞であり、直前の文で述べている意見の理由であることをより明確にすることができ、エが正答となります。Bについては、①段落で述べている意見(SNSのやりとり)においては相手への伝わり方を考えて言葉を選んで使うべきの根拠となる具体例をより詳しく説明するために加えている内容のため、アが正答になります。                                                                |
|      | 1-B   | ア                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      | 3     | エ                                                                                           | 読み手に伝えたいことが分かりやすく伝わるように、文章の構成や展開を工夫することが大切です。本文は、①段落で伝えたいことを述べ、②段落でその根拠となる具体例を示し、③段落で予想される反対の考えを示し、④段落でもう一度伝えたいことを述べる、という構成となっています。それぞれの段落の役割や関係を検討すると、④段落の内容によって②段落の具体例が事実であることが明確になることはないと考えられるため、エが正答となります。                                                                                                |
|      | 4     | イ                                                                                           | 書くことは個人での作業が中心となるため、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章が他人にどう読まれるかを自覚し、次の書くことへ生かす具体的な視点を導くことが重要です。考えをよりよく伝える文章にするためには、根拠を明確にすることや、説明や具体例を加えること、表現の工夫をするなどが考えられ、ここでの適切なアドバイスとしてはイとなります。                                                                                                                                      |
| ③    | 1     | ウ                                                                                           | 前後の語句や文などをつなぐ働きをもつ、接続する語句の働きについての問いです。空欄の前後で、どのような内容のつながりがあるのかを確認すると、前に述べたことと反対の内容を述べているため、ウが正答となります。                                                                                                                                                                                                         |
|      | 2     | イ                                                                                           | 本文によると、「栄養分の偏り」「自家中毒」「病原菌の増加」が連作障害の原因となっていること、「連作障害」はムギでは問題になっている一方、イネでは起こらないことが述べられています。したがって、イが正答となります。                                                                                                                                                                                                     |
|      | 3-I   | 水を流している                                                                                     | 本文によると、田んぼは水を流していることや、水を入れたり乾かしたりすることにより、連作障害が起こらないことが述べられています。このことを踏まえ、空欄に当てはまる言葉を本文中から探すことで、正答が導き出されます。                                                                                                                                                                                                     |
|      | 3-II  | 連作障害が起こらない                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      | 4     | ア                                                                                           | 日本の農業(イネ)とヨーロッパの農業(ムギ)を整理しながら読んでいくことにより、表の空欄に当てはまるキーワードを得ることができ、正答が導き出されます。                                                                                                                                                                                                                                   |
| 5    | ウ     | 表現や構成の特徴を問うています。本文は、日本の稲作の強みを、接続する語句を効果的に使うことでヨーロッパの農業と比較しながら述べています。したがって、ウが正答となります。        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ④    | 1(1)  | ア                                                                                           | 文脈に即して「うつ(る)」の漢字を問うものです。空欄前後から、「水に反射する」という意味であることが判断されるので、正答はアとなります。                                                                                                                                                                                                                                          |
|      | 1(2)  | ウ                                                                                           | 文脈に即して「お(し)」の漢字を問うものです。空欄前後から、「推測する」という意味であることが判断されるので、正答はウとなります。                                                                                                                                                                                                                                             |
|      | 2主語   | エ                                                                                           | 文中の主語と述語を指摘する問いです。まずは述語を探します。述語は「どうする、どんなだ、何だ」を表し、原則として文の一番最後にくるので、「オ 置かれた」となります。一方、主語は、述語の主体となります。「何が」置かれたのかを探すと、「エ 資料が」が導き出されます。                                                                                                                                                                            |
|      | 2述語   | オ                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      | 3(1)① | いいければ                                                                                       | 古文のきまりの一つである、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いです。語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お(わ行)」に直すこと、「む」は「ん」に直すきまりに従い、正答例のように直します。                                                                                                                                                                                                        |
|      | 3(1)② | かえしせん                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      | 3(2)  | ア                                                                                           | 口語訳を基にして文章の展開を捉え、主語を答える問いです。斧(よき)を取られた「木こり」が、「山もり」に歌を詠んだところ、「山もり」は歌を返すことができなかったため、斧を返してもらえたという内容が読み取れるので、傍線部の直前の「うれし」は、「木こり」の思いであると解釈されます。                                                                                                                                                                    |
| 3(3) | イ     | 点画の丸み、点画の方向や形の変化、点画の連続、点画の省略など、行書の特徴と、行書に調和する仮名の書き方を理解しているかをみる問いです。平仮名は漢字よりも小さめに書くといわれています。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

#### 4 特徴的な問題と解説

### 中・中等教育学校 第2学年 国語 「書くこと」

#### 【特徴的な問題】

#### 問題 ② 意見文を書く 「言葉の使い方について」

② 山田さんは、国語の時間に、「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書いています。次は、山田さんが書いた【意見文の下書き】です。これを読んで、右の問いに答えなさい。(①から④は、段落の番号を表します。)

#### 【意見文の下書き】

① SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などを活用し、インターネット上で文字を通したやりとりをする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。  
A からだ

② 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで待ち合わせの相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、待ち合わせの場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何て来るの。」と書いたところ、「どうして行ってはダメなの。」という返信が来て、急

に気付かされたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか。」という意味で捉えてしまったのだ。

そのとき私が、友達に誤解を与えないようにしていねい  
B 「集合場所までどうやって来るの。」と書いていれば、このようなことは起こらなかっただろう。

③ 皆さんの中には、友達同士であれば短い言葉でも十分に意思疎通が図れると考えたり、短い言葉でやりとりができる手軽さこそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を与え、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。

④ SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私はSNSを使ってやりとりをする際には、自分が書いた言葉を必ず読み返してから発信するようにしている。

※本問は、令和3年度全国学力・学習状況調査問題をもとに作成している。

#### 【出題の趣旨】

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠の適切さを考えて説明や具体例などを加えたり、読み手の立場に立って表現の効果などを確かめて文章を整えたりすることを求めている。

#### 【指導のポイント】

#### ○根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。

自分の考えが伝わる文章になるようにするためには、書こうとする根拠が自分の考えを支えるものであるかどうかを検討するように指導することが大切である。その際、その根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであること、自分の考えが事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されていることなどが、適切さを考える観点となる。その上で、説得力を増すために説明や具体例を加え、考えや意見の根拠となることを具体的に記述するように指導することが重要である。

例えば、第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(2)「A 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。」などとの関連を図り、自分の考えが伝わる文章になるように説明や具体例を加えるなど工夫して書くとともに、読み手の立場に立って自分の書いた文章を見直したり、書いた文章を互いに読み合ったりするなどの学習活動が考えられる。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

## 【学びの知恵袋(授業アイデア例)】

〇〇中学校の校則を見直そう ～根拠の適切さを考え、説明や具体例を加えて意見文を書く～

〈本アイデア例と関連する問題及び学習指導要領における内容〉

### 設問<sup>2</sup>

[第2学年] 思考力、判断力、表現力等 B

ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

### 教材

- 自校の校則のデータ

### 学習の流れ

#### 第1時

- ① 学習の見通しをもつ。



教師

〇〇中学校の校則について、自分の体験を根拠として意見文を書く学習をします。書いた意見文は、生徒の声として実際に検討してもらう予定です。

※学習活動だけでなく、目標を共有する。必要に応じ、ルーブリックを提示することも考えられる。

- ② それぞれの校則についての自分の考えと、そのことに関する体験を共有する。



※校則はクラウド上で共有(「服装」「持ち物」「髪型」など、学校の実態に合わせて)し、それぞれの考えや体験について他者参照できるようにすることも考えられる。

- ③ ②を踏まえ、自分が書くテーマ(校則)を選び、「このまま継続すべき」「改定すべき」どちらかの立場で、考えの根拠としての自身の体験を含めた200字程度の意見文を書く。



教師

伝えたいことを読み手に伝えるために、根拠としての体験が自分の考えを支えるものとなっているか検討して、意見文を書きましょう。また、「改定すべき」という立場に立つ場合は、批判して終わりではなく、建設的な提案をするようにしましょう。

※意見文は、次時の活動につながるように、クラウド上で作成できるとよい。

## 第2時

④ 読み手の立場に立って見直したり、読み合ったりして、推敲する。

[A さんが書いた意見文と生徒同士の交流の様子(例)]

私は、中学校の校則でスカートの着用が定められていることに対して、スラックスも認めるべきだと考えています。理由は、スカートだと寒い日や雨の日に不便を感じることもあるからです。

特に冬の時期は、スカートを履いていると体が冷えやすく、風邪をひきやすいです。スラックスなら、寒さから守られ、より快適に過ごすことができますと思います。また、スラックスを履くことで、動きやすくなり、授業や学校行事にももっと自信をもって参加できると感じます。

制服にスラックスを選べるようになれば、個々の体調や快適さに合わせた選択ができるようになり、学校生活がもっと楽しくなると思います。



Aさん

「スカートは冬の時期に体が冷えやすい」という内容や、「スラックスは動きやすい」という内容は、意見を支える根拠としてどうでしょうか。

とてもよいと思います。ただ、「体が冷えやすく、風邪をひきやすいです」という書き方だと、事実ではなくAさんの考えでしかないと受け取られてしまいそうなので、実際にAさんや他の女子生徒が体を冷やして風邪をひいたなどの体験として書くと、より説得力が増すと思います。



「自信をもって参加できる」というところが伝わりづらいと感じました。内容がもう少し説明されるとよいと思います。



### 推敲、共有の観点(例)

- ・表現の効果について(説明や具体例などの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているかなど)
- ・表記や語句の用法について(文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分け、語句の選び方や使い方が適切かなど)
- ・叙述の仕方について(文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順が適切かなど)

※クラウド上で共有してコメントを入れ合ったり、直接伝え合ったりすることが考えられる。

※推敲、共有に当たっては、本单元においては表現の効果(根拠の適切さ)にのみ焦点を絞って行うことも考えられる。

⑤ 学習を振り返る。



教師

単元を通して気付いたことや学んだこと、自分の学び方について、振り返りましょう。

振り返りの観点(例)

- ・根拠の適切さを考え、説明や具体例を加えることについて気付いたことや学んだことはどのようなことか。
- ・この学習で気付いたことや学んだことを今後どのように生かしていきたいか。
- ・自分の学習への取り組み方、学び方はどうだったか。

※振り返りは、個人で行うとともに、クラウド上で内容を共有したり、複数人で交流したりすることが考えられる。

※書いた意見文は、校則検討委員会や生徒会、生徒指導部等の検討部会に渡し、反応を受け取れるとよい。

〈本アイデア例を活用する際のポイント〉

○ 他教科等の学習や学校行事等との関連を図り、本単元を位置付けることも有効である。

〔例〕「社会問題について意見を述べよう」(社会科等)

「学校生活をよりよくする提案をしよう」(生徒総会)

〈関連する指導事例〉

- ・令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例(中学校国語)  
「『読み手の立場に立って、文章を整えよう』～表現の効果などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする～」
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書(小学校国語)授業アイデア例  
「『六年生としてがんばりたいことを書こう』～文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける～」

## 令和6年度 さいたま市学習状況調査委員会・教科等部会名簿【国語】

|                |         |    |        |
|----------------|---------|----|--------|
| 【小学校校長会】       | 下落合小学校  | 校長 | 小田切 倫子 |
| 【中学校長会】        | 上大久保中学校 | 校長 | 高久 正行  |
| 【活用推進委員会(小学校)】 | 徳力小学校   | 校長 | 丸山 謙一  |
| 【活用推進委員会(中学校)】 | 与野西中学校  | 校長 | 内田 崇史  |

### 【小学校国語科部会】

|     |         |    |       |
|-----|---------|----|-------|
| 部長  | 沼影小学校   | 校長 | 大森恵美子 |
| 副部長 | 神田小学校   | 教頭 | 佐藤 大介 |
| 部員  | 高砂小学校   | 教諭 | 谷口 周  |
|     | 土合小学校   | 教諭 | 小瀬村治彦 |
|     | 大谷場東小学校 | 教諭 | 下山田遼子 |
|     | 野田小学校   | 教諭 | 須藤 祥子 |
|     | 栄和小学校   | 教諭 | 森永 崇寛 |
|     | 善前小学校   | 教諭 | 佐藤真奈美 |
|     | 大宮小学校   | 教諭 | 高橋佳那子 |
|     | 大宮南小学校  | 教諭 | 山田 郁子 |
|     | 大谷小学校   | 教諭 | 野村 昌平 |
|     | 上落合小学校  | 教諭 | 若狭 彩香 |
|     | 与野南小学校  | 教諭 | 神田 香利 |
|     | 新和小学校   | 教諭 | 須藤 葵  |

### 【中学校国語科部会】

|     |            |    |       |
|-----|------------|----|-------|
| 部長  | 三室中学校      | 校長 | 廣江 剛  |
| 副部長 | 本太小学校      | 教頭 | 平山 昂  |
| 部員  | 木崎中学校      | 教諭 | 手島 真弓 |
|     | 本太中学校      | 教諭 | 服部 瑤子 |
|     | 上大久保中学校    | 教諭 | 関口 雄太 |
|     | 尾間木中学校     | 教諭 | 田中康太郎 |
|     | 大宮北中学校     | 教諭 | 渡辺 光祐 |
|     | 大谷中学校      | 教諭 | 井口 百恵 |
|     | 第二東中学校     | 教諭 | 松尾 彩  |
|     | 大宮国際中等教育学校 | 教諭 | 川上 由貴 |

### 【担当】

|         |      |       |
|---------|------|-------|
| 教育研究所   | 指導主事 | 細田 勇樹 |
| 教育課程指導課 | 指導主事 | 松村 愛  |

|         |      |       |
|---------|------|-------|
| 大宮南中学校  | 教頭   | 阿部 史朗 |
| 教育課程指導課 | 指導主事 | 塩原 昭彦 |

---

令和6年度 さいたま市学習状況調査 解説資料【改訂版】 国語

令和7年2月 発行

発行 さいたま市教育委員会

編集 さいたま市立教育研究所

---